

GAP ニュースレター

UFOと宇宙哲学の研究誌 季刊日本GAP機関誌

GAP-JAPAN NEWSLETTER

No. **74** SUMMER 1981

驚異と感動の証言

●金星旅行記 ジョージ・アダムスキー

死と空間を超えて

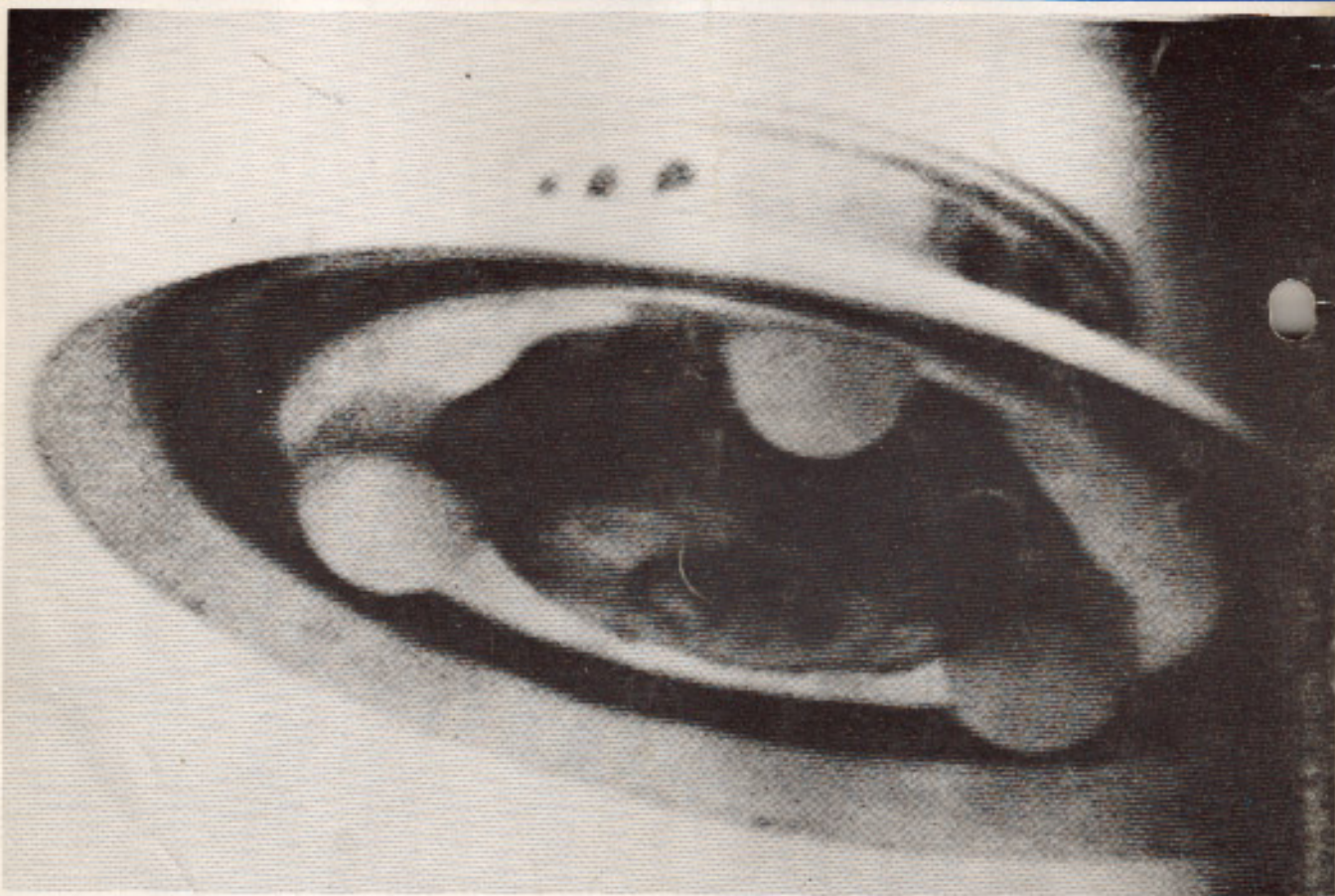
日本GAPとアダムスキー 久保田八郎

超低空に舞い降りた円盤！ 末永雅仁

「さらば空飛ぶ円盤」 ジョージ・アダムスキー

第2章 この太陽系内の宇宙活動

第3章 宇宙船と重力



〈巻頭言〉 宇宙哲学と超能力…1

●金星旅行記
死と空間を超えて G. アダムスキー…2

日本GAPとアダムスキー 久保田八郎…10

超低空に舞い降りた円盤！ 末永雅仁…16

—各地支部大会詳報—
静岡／大阪／仙台・山形／札幌・旭川／名古屋…20
盛況！GAP出版記念会…26

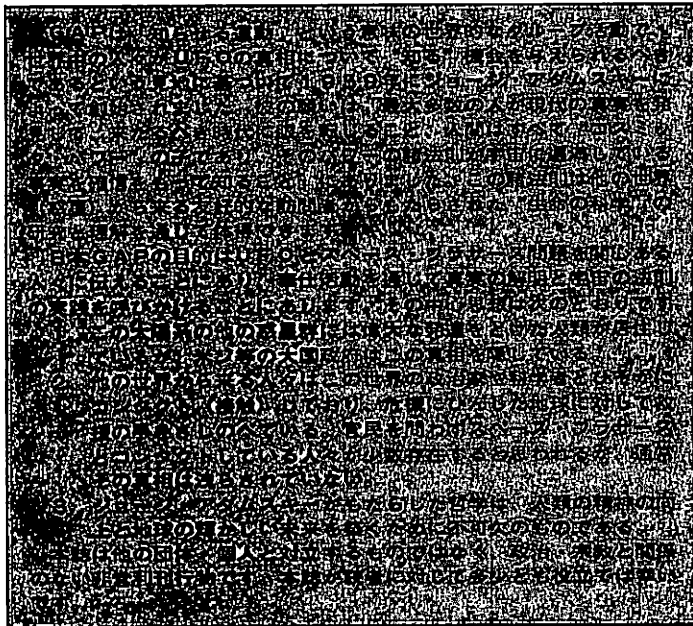
さらば空飛ぶ円盤 第2章 この太陽系内の
宇宙活動／第3章 宇宙船と重力 G. アダムスキー…28

■映画解説■2001年宇宙の旅…32
〈会員の声〉むかし出会った惑星で…34
出発せまる！「アメリカの宇宙考古学の旅」…36
日本GAP各地行事報告と予告…38
〈予告〉本年度日本GAP総会…39
日本GAP全国月例研究会案内…40

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
全記事・写真共他誌への無断転載を禁じます。



GAPとは



■表紙写真は1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州パロマー山のパロマーガーデンスで、ジョージ・アダムスキーが6インチ反射望遠鏡を使用して撮影した金星のスカウトシップ（偵察船）。直径は約10メートル。

ジョージ・アダムスキーの宇宙哲学を研究してみると、徹頭徹尾人間の内部に潜在する未知の能力の開発に重点がおかれていことに気付く。テレパシー、透視力、予知力等の開発である。開発というよりも人間の精神が高次なレベルに発達すれば自然にこれらの能力が顕現するものなのだろう。これを超能力と称するのにはいささか同調しかねるが、他に適當な語が見当たらないので一応これを用いることにしよう。

ア氏の体験記を読んで不信感を起こす人が最も強く指摘するのは、進化した異星人が、発音される言葉によらないで相手の想念を読み取って精神感応的に自由に会話を交わすことができるという説明である。そのような事はあり得ないというのだ。しかし彼ら異星人はこの能力が自在であり、限度を超える場合にのみ音声による言語を用いるという。

ここで懐疑論者が強調する否定論は地球人の肉体や精神構造を基準にしているという点を考える必要がある。地球人の人体はおろか知能や精神の発達度は人間として最下位に属するという「事実」をあらためて認識し、この地球という惑星の持つカルマに思いをめぐらすならば、前記の否定論はきわめて曖昧になつてくるのである。

その「事実」を知るにはアダムスキーの体験記による以外に方法はないが、高度な学識教養を有する人士が真つ向から否定し嘲笑する一方、中学生程度の幼年男女で直感的に事実であることを悟つて、選げき惑星に限りない憧憬を抱いたりす

る人もあるが、これも実は人間の内部に潜在する先天的なテレパシクな能力に起因するのであつて、学問や知識を土台とした結果ではないのである。

いかなる人間の内部にも超能力的な特殊能力は潜在しているけれども、一般人はそれに気付かず、ましてや開発の自己訓練などは全くやらなから、潜在能力は眠つたまま忘れ去られてしまふ。これは自動車の運転能力はだれにも備わっているけれども、練習をしなければその能力が出てこないのと同様である。

人間が本當の意味でのコスミックマン(宇宙的人間)を志向するのなら、自己

〈巻頭言〉
と
宇宙超能力



に内在する無限の能力と可能性をまず認めて、それを開発し、駆使することが必要となる。なぜなら別な惑星の進化した人類がその能力を応用して天国のごとき世界を築いているのならば、我々もそのような生き方に習うべきであらうからだ。したがつて我々は単なる道徳上の愛とか慈悲とかの抽象的問題のみにとどまらず、超能力を駆使する人間として驚くべき離れ業をやつてのけるように自己訓練に励まねばならないが、これは容易ではない。とかく非宇宙的細胞が頭をもたげて、そんな能力など出てくるものかとおめきたてるのだ。

だが最近のある本によると、本来透視力などに全く関心なかつた人が猛烈な自己訓練によつて、自在に何でも遠隔透視できる能力を開発したという。しかも本人はその能力については黙して語らず、ひそかに応用して他人を助けているとも述べてある。これはGAPとは無関係な人の体験だが、我々には素晴らしいテキストがある。アダムスキーの「生命の科学」と「テレパシー」、それに「宇宙哲学」だ。これらを総称してアダムスキー哲学または宇宙哲学というのだが、これを学んで応用しないという手はない。アダムスキーが「生命の科学」講座を開始した初期の頃、米国で受講した人々のあいだに奇跡が続出したといわれている。

日本でも「テレパシー」と「生命の科学」を邦訳版で出した当時、たしかに超能力をある程度開発した人々があつた。しかし年月の経過とともにこれらを読む人達は次第に観念的となり、実習から遠ざかつた傾向がある。これはまことに遺憾なことだ、折角偉大なガイドブックに恵まれながらこれを生かし得ないというのは大きな損だとも言えるだろう。

というのは、地球という惑星は将来、次第に険悪化しこそすれ、このまま何事もなく天国のような世界になることは逆立ちしても考えられないからである。予想される大変動としてはポールシフトによる自然の大激変、第三次大戦という人工的な大惨禍、これに経済界の大変動の三種類があるが、この内最も可能性のあるのは三番目である。

ある日何らかの理由で価値観が大転換

するか、または食糧不足で超インフレになるか、世界的な暴動が発生するかで、紙幣がただの紙切れ同然になるときがいつか来るかもしれない。こうして地獄のような様相を呈した時代に頼りになるのは金力ではなく自己の信念とテレパシクな感知力である。食糧の入手できる安全な地域で生き延びるにはどこへ行けばよいか、どうすればよいか。

これを教えてくれる者は自己の内部の「宇宙の意識」からマインド(心)に伝達される印象なのであつて、マインドだけに頼つて生きている他人ではない。自己を失つて他人の言に左右されている者は悲惨な運命におちいるだろう。だからこそ我々はアダムスキーの宇宙哲学を重視せざるを得ないのである。

この哲学は観念の空回りではなく、人間を救う神秘的な力を秘めた高次な導き手であることは間違いない。多くの実例が実証しているのだ。強烈なイメージを描き、ミラクルワード(奇跡を起こす言葉)をと覚えて望ましい物事を実現させるのもこの宇宙哲学の実践法の一つである。

そして更に身につけたいのはテレパシー能力、透視力、未来予知能力等の素晴らしい能力である。これは絶対に不可能だというようなものではなく、むしろ人間が発端に着手するのを待っているのだ。万人の中に潜在するこの偉大な力をまず認めて、次に規則正しい練習を忍耐強く続ければ、いつか必ずゴールに到達できるだろう。それを現実させるためにもイメージを描くことは重要である。

●金星旅行記

ジョージ・アダムスキー

久保田八郎訳

死と空間を超えて

驚異実話



●この写真は1974年2月9日、マリナー10号が170万マイルの位置から撮影した金星。

金星には偉大な進歩を遂げた人類が存在し、ひそかに地球を救済しているが、大國政府はその真相を隠している。なぜか。

一九六〇年十二月、アダムスキーは金星の大田船に乗った。そのとき妻と二人が金星人の少女と出逢った。その少女と対面して深遠な宇宙の法則を伝える命題が、それは何か。

地球は地軸傾斜周期に入っているから、必ずや大変動が接近しているのか。この記事は、今を去る二十年前のアダムスキーが世界の有名GAPリーター達に語り掛けた驚異と感動の物語である。

この記事は一九六一年(昭和三十六年)三月にアダムスキーが編者を含む世界の少数のGAPリーダーに送った長文の情報であるが、きわめて重要な内容のために当分の間公開禁止となっていた。

その後一九六五年にアダムスキーが他

界し、更に四年後の一九六九年十二月、編者による「空飛ぶ円盤とアダムスキー」と題する書(高文社刊)を発売した際、この記事を冒頭に掲載したのであるが、この書は絶版になって久しく、新しい会員の方々には未知であると思われるので、

ここにあらためて改訂した上で再録した。この貴重な資料が読者に裨益すれば幸いである。

× × ×

一九六一年の最初の三カ月間、地球の宇宙開発は地球人が惑星から惑星へ旅をするような時代へむかつて大きく飛躍しました。近隣の惑星人たちはすでに地球へやって来ているというのに——。しかし私たちにはまだ学ぶべき事柄が沢山あります。これは思ったほど容易なことではないでしょう(以下二行は文字がかすれて判読不可能。原文は原始的な方法でコピーされた青いタイプ文字)。

たとえば一個の探査機が宇宙空間のある一部分を通過するとき、その装置は特殊な情報を地球へ送り返します。ところが、もし翌日、別な探査機がまた同じ部分を通過するとしたら、その装置は全く別な情報を送り返すかもしれません。宇宙空間の状況は地球の大気圏内と同じように変化するからです。この事実を理解しない限り、このような探査機からの報告は次々とその内容が食い違うためにどれが真実なのかわからなくなるでしょう。もちろん現在地球の軌道を回っている人工衛星群の機械装置もまづがいなく同じことをやっています。この理由のために地球の科学者をもつと沢山の人工衛星を送り出すことができれば、気象状況の予報をもつと正確に知ることができ、だるうと考えています(編注Ⅱこの点は現在飛躍的に進歩している)。しかし全

宇宙にわたって同じ状況や変化が発生していることを知らせるほどに地球から遠方へ飛んで行った人工衛星はまだありません。もつとも、私の知る限りでは大気圏外には一惑星の大気圏内で起こるような目に見える雲の形成や雷光は存在しませんが——。

探査機の打ち上げには費用が高くつきます。このためにまだ多数の探査機は打ち出されていません。人類が宇宙旅行をやつと始めるときにでくわすかもしれない宇宙の状況に関して多量の情報を入力し得るようになるまでには、まだうんと沢山の探査機を打ち出す必要があります。

自分で学ばねばならない

ソ連は今や金星探査機を送り出しています。ただし探査機との連絡は絶えたという事です。しかしこれは科学的な目的を有するものであり、しかも地球人が必要知識を入手するための唯一の手段でもありますので、もしこの探査機が正しい方向にむかっているならば金星に到着することが許されるはずで

先月(注Ⅱ一九六一年の二月)の二十日、二十一日および二十二日に私はブラザーズ(注Ⅱ友好的な異星人)との会見を許されました。ただし今回は乗船はしませんでした。討議すべきことがあまりに多すぎたため、私はこの金星探査機の問題をほんの少し持ち出しただけで、その金星探査機のとを巨大な惑星間宇宙船(注Ⅱ別な惑星の宇宙船)が追跡してい

るとのこと、しかも妨害はしていないということでした。

この金星探査機からすでに多くの事柄が科学者の手によって判明しています。たとえばこの探査機が金星に着くのは当初五月の終わりととなり、次に四月中旬に変わりました。こんなふうには予定が次々と変わるの探査機が太陽から出ている何かの未知な力に捕らえられ、それが予定された速度よりもつと速く探査機を引っぱっているからで

以上はブラザーズが確認したこと、安全に宇宙旅行をするために地球人が大気圏外に関して知らねばならない無数の事実のなかの一つにすぎないとも教えられました。金星の引力をそらせるほどに、そしてソ連で計算して決定された元のコースからはずれるほどに、太陽の力が探査機を引っぱつたのかどうかについては彼らは何も言いませんでした。論理的にはこれは起り得ることです。地球人は自分自身の体験および自分自身の装置によつて学ばねばなりませんので、地球人の努力の結果を観察して記録しているブラザーズは妨害もしなければ、彼らの知識をこちらへ与えようともしないのです。だれも知っていないように、体験から学び取られるレッスンこそいっそうよく理解され記憶されるものですから、以上のことは至極当然です。

もしソ連の探査機が金星の引力の圏内に入るほどに彼らの計算が正確ならば、それは金星に到着することが許されるはずです。そのコースが都市または人の住

む場所へ直接に落ちるような方向にあるならば、その探査機は人の住んでいない場所へ落ちるようにコースを少しゆがめられるでしょう。このようにして生命と物資を保護するのです。私たちが彼らの立場をあればやはりそうするでしょう。そのゆがみはごくわずかなので、そのために地球の基地へ記録を送るのに別段差支えはないはずで

大國政府は真相を隠す

ところで次のように申しませう。この探査機が荒地地帯へ安全に着陸するとしましう。金星上には地球とよく似た地形があるのです。すると探査機はおそらく「生命は存在しない」という報告を送り返すでしょう。探査機の内部にどのような装置が仕掛けてあるのか、着陸後にその装置類がどんなふうにして作動し続けるのか、といったことは私たちにわかりませんが、私としては、この奇妙な物体を調査するために当然現地へ行くと思われる(金星の)人々を写真に撮つて送り返すカメラが内部に仕掛けてないとは到底考えられません。しかも同じような状態にある何かの物体に地球人が関心を示すのと同じほどの興味をもつて、それが金星人の手で調査されることはまづ間違いないでしょう。おそらく調査どころではなく、それ以上のものがあるでしょう。彼らは探査機が打ち込まれる以前からその性質について警戒していたかもしれないからで

ところで、その探査機の内部にカメラ

が装備してあると仮定しましょう。そしてこれが人間、動物、種々の植物の写真を送り返すことができます。しかしこのような写真がすぐに世界に広められることはないでしょう。いかなる国が最初に他の惑星に到着するかは問題ではなく、だがそれをやるうとも当分のあいだ噂や反駁が続くでしょう。

私なら次のように言いたいところです。つまり（地球から出発した）宇宙船の乗員が月または他の惑星に安全に着陸したとして世界向けにラジオやテレビで放送するとしても、彼らはただ着陸したというこゝろしか放送しないでしょう。安全な帰還の途中で別な情報がいかに政府宛に送られるでしょう（注Ⅱアポロ計画により月面に着陸した宇宙飛行士たちの報告は全くありきたりの内容であった。これについては編者著「七つの謎と奇跡」（主婦の友社刊）の第七章「月は異星人の宇宙基地」の驚異的な暴露記事を参照されたい）。

これは世界に存在する宗教的、政治的な状態を考慮したためと、それに果たして大衆がどれほど信用するかという懸念のためです。地球製の宇宙船で人類が宇宙旅行をするようになるのはさほど遠からぬことであると私は思っていますが、その場合に現地状況がそのままにすゝぐ伝えられるかどうかは疑問です。したがって、でたらめな報告にまどわされぬようにすることが肝要です。このようなでたらめな報告は今後も次第に増えるでしょう。過去にいかに重要な事件が取り扱われてきて……（注Ⅱ以下数行は原文

の文字不鮮明のため判読困難）。

私に与えられて私があなたがたにお伝えしたこれまでの情報の内容が事実にもとづくものであることはいずれわかります（注Ⅲそのとおりになった）。あなたがたのあいだに不必要な混乱が起こるのを避けるために以上の事柄についてあなたがたによく注意するようにとプラザーが私に警告しました。私はこの書簡を昨年（一九六〇年）十二月にプラザーと数日間会って帰ったすぐ後に送りたかと思っていました。ひどい病気になる、一緒にいる助手の女性たちにさえも体験を話すことができなくなりました。今はかなり回復し人間らしい感覚を取り返し始めていますので、できるだけ情報をお伝えしたいと思います。この情報の性質や、これまで私が与えてきた信頼にたいして各国リーダー中のある人たちが示された反応などにかんがみて、この書簡をこれまで信頼に「応えて下さったリーダー」だけにお送りします。この内容を読まればおわかりになると思いますが、当分の間発表はしないで下さい（注Ⅳ）から日本でも当分は発表しなかつた）。

テレパシーの開発により 理解力を

十二月と二月の両月においてプラザーズとともにすごした期間中のほとんどの時間は、世界問題の討議と宇宙で起こっている事柄のもつ明確な概念を私に与えることで費やされました。この書簡の後の部分でなるべく詳細に述べつもりですが、例外として重大な出来事も発生

しました。

この世界の状況につきましては、人々のあいだに謙虚さと良き理解とを大きく必要とするように思われます。この基礎の上に立つてのみ各国政府は各自の問題を調和してやりとげることができるよう。米国の新大統領ジョン・F・ケネディが、米国の青年たちを外国へ派遣してその国の人々と生活を共にしながら無報酬で働かせるという案を立てました（注Ⅴこれは平和部隊を意味する）。

これは前記の点について先駆をなすものと言えます。すなわち科学、医学、土地管理、友好精神などを助長するための理解と努力という純粋な動機で派遣するのです。計画にたいする反響を調べるための準備がなされる以前から、これらの任務を引き受けたいという申込がワシントンの臨時本部に殺到したといわれています。詳細はまだよくわかりません。任命された人々はこの任務が困難であることは承知しているでしょうが、しかしこのような計画が成功すれば、それは体験を通じて得られる理解により、大いなる友好化への一手段となるでしょう。そしてたしかにそれは進化を妨げる大きな障害のひとつである人間の傲慢さというものを減少させることになるでしょう。

地球の一流の政治家たちが、プラザーズがやっているのと同じような方法で世界の問題を分析しているのを私はテレビで知って驚いています。この政治家たちはほとんど各国を代表しています。表面的な闘争は避けられるだろうと私たちはみな考えていますし、プラザーズも干渉

はしないで、それとなく影響を及ぼすことによつて地球人を助けるために最善を尽くしているのです。

当然のことながら、私が以前に申しましたように、プラザーズは各国政府の首脳とともに密接に働いていますが、彼らはひそかに大衆の目を避けています。彼らの名前は決しておおよけにはされませんし、彼らの努力が目立つようなこともありません。これらは地球人自身の問題ですから、自分たちでひとつひとつ解決する必要があります。

地球人は感情を支配することなく……（注Ⅵ以下、一部分は原文の字がすれて意味不明）……次の瞬間に何を期待するべきかはだれにとつても不可能だ……プラザーズはくり返し語りました（注Ⅶ地球人は感情を支配できないので、カットとなる何をすべきかわからない、というような意味らしい）。だからこそ理解が重要なのであり、また私の著書「テレパシー」の中で述べられている知識とその練習に私たちのだれもがより以上の努力を注がねばならぬと申し上げてきたのです。

地球は地軸傾斜周期にある

発生している自然界の物理的な変化がくり返し討議されました。私たちが学びつつあるように彼らプラザーズもまた学びつつあるのだというのを忘れてはなりません。以前にお話をしたと思いがかりでなく太陽系全体がそうなのです。し

かしこの地球は太陽系全体に発生している他の諸変化とともに周期的な地軸傾斜を体験しつつあります。このようにして作り出されるもろもろの結果の組合せこそ彼らブラザーズが長いあいだ密接に地球を観察してきた主な理由となるものです。これらの結果によってブラザーズは全太陽系中に何を期待すべきかを知ることができのです。この太陽系中の全惑星が異常な気象状況を体験しつつあるのですが、地球だけは地軸傾斜周期と太陽系の変化との両方から影響を受けています。しかし科学者はこの事実に気付いていません。

この太陽系中に起こると思われる事柄を少しでも理解し得るようになるには、宇宙について明確な概念を持つ必要があります。聖書の中の「天」という言葉は宇宙空間と太陽系内の空間の両方を意味します。

宇宙空間は初めもなく終わりもなく、その中に無数の太陽系があつて各太陽系はそれぞれ惑星群を従えています。「宇宙からの訪問者」第二部第五章の中に、宇宙空間が初めもなく終わりのない海にたとえてあつたのを記憶しておられるでしょう。その活動はかなり説明されました、太陽系やその形成について少しばかり述べてありました。中央の太陽のまわりを完全なタイミンクをもつて回転している惑星群を従えた一太陽系は「一単位」と述べられました。

そこからこの問題を取り上げて、もう少し深く掘り下げてみますと、一太陽系とは、物体(惑星)にたいする圧力によ

つてその惑星群をそのままの形に保つた原因となる力の組織化された一単位であるといつてよいでしょう。と同時にこの力は各惑星にたいしてそれらの活動と軌道上の公転を続けるのに必要なエネルギーを供給しています。かつて太陽系は単位内の惑星群が支持されているのと等しく宇宙空間によつて一単位として支持されています。

太陽系や宇宙空間にみまざるこの力の活動は海洋中の渦巻きにたとえることができます。太陽の引力を太陽系の中心とした渦巻きです。海洋中の渦巻きの中心たる引力が弱つてきて、ついに支配力としての存在を停止するとき、それまで渦の活動の中に集中していた泡を含む微小な物質は海洋の総体的な活動の果てしない広がりの中へ解放されます。

太陽系の活動についても同じことがあてはまります。中心の引力が減少して変化し、惑星群のまわりに存在していた圧力がなくなれば、各惑星は崩壊して元のガス状と宇宙塵とに戻元してしまします。これは一瞬間に起こるものではありません。私の知る限りでは、その崩壊活動に要する時間は不明です。しかしバランスという宇宙の法則に従つて、一太陽系が崩壊過程に入るにつれて別な太陽系がかわりに形成されるのです。

ごく最近、一科学者が太陽の磁極が逆転したと声明したことをみなさんはご記憶でしょう。これが地球にどんな影響をおよぼすかについて当時少し議論がありました。非常に申し訳ないことに、私はブラザーズと会つたときに、この問題を

持ち出すのを忘れたのです。それで彼らはこのことについては何も言いませんでした。しかし私は自分でこの問題を考えますと、この太陽の変化は私たちにどうであるように彼らにとつても新しい問題であるにちがいないと思われまふ。彼らは「傾斜周期」を体験した惑星群の記録を持っています。ご存知のように、その件に関してはこれまで私と話し合つたことがあるのですから――。

しかし現在発生しつつある現象は彼らにとつても未知の事柄であり、それで彼らも概してその結果がどんなものになるかを正確には知つていないように思われます。彼らは注意深い観察によつて宇宙のひとつの型が展開しているのを見ています。われわれの太陽系が崩壊の過程にあることを彼らが見れば、このことを私たちに知らせるでしょう。地球の人工衛星も発生しつつある変化を探知して警告するかもしれません。

近隣の惑星人たちはほど遠からぬ所に新しい太陽系を発見しています。これは人類が住むのに充分に準備がととのつているほどに長く創造の過程を経ています。私たちの太陽系の各惑星が崩壊の過程にあることが彼らの観察によつてはつきりすれば、彼らはこの新しく発見された太陽系の各惑星へ移住してしまふでしょう。彼らはこのような必要が起こつてくるならば地球人の宇宙にたいする関心と発達がこの世界の人類にも移住の手段を講じるほどに急速に高まることを望んでいるのです。

もしそうならば、それはちよつとした

聖書の子言の実現となるでしょう。イザヤ第六十五章第十七節「見よ、私は新しい天と地とを創造する。さきの事はおぼえられないことなく、心に思い起こすことはない」。またマタイ伝第二十四章三十五節にあるイエスの言葉「天地は滅びるだろう。しかし私の言葉は滅びることがない」などがそれです。現象は変化するでしょうが、イエスの語つた宇宙の諸法則は不変です。多くの太陽系が生み出され、やがてまた消え去つてゆきますが、無限なる宇宙には初めも終わりもなく、永遠にそのままにあるでしょう。

以上の事柄すべては何も知らぬ人にとつてはきわめて恐ろしいことのように聞こえるかもしれませんが、創造の法則が、転生(生まれかわり)の法則を通じて生命の永続性を与えてくれるのです。

十二月の初めにブラザーズと会談したときの二日目に、この転生の法則の真実性がはつきりと証明されました。私はいつもそのことを信じていたのですが、自分にとつてそれを証明する方法がなかったのです。

亡き妻メリーは金星人の少女に生まれかわっていた!

私はその日いつものようにブラザーズに会いましたが、今度は直接に宇宙船へ乗り込みました。船内で会つた人々のなかに、私が特に心をひかれた十二歳ないし十四歳くらいの、非常に美しい少女がいました。

彼女はまるで私を知っているかのよう

に私の方へ歩み寄って来ましたが、これは彼女が前生で私を知っていたからでした。彼女は前生から強い記憶を持ち運んでいて、私との会話で言葉少なに、彼女自身が英は一九五四年に死んだ私の妻メリーの生まれかわった姿であることを告げたのです。彼女には英語は困難なようでしたが、すぐれたテレパシーの力を持っており、私が彼女の首おうとするこゝとを理解しているかどうかをはつきりとは知ることができるようでした。

かなり以前に、彼女が宇宙船で私に会いに連れて来られるかもしれないという約束がブラザーズからされていたのですが、これはその約束の履行であつたわけです。まだ子供ですが容貌は大部分私の生前の妻に似ています。私の心中にはべつに疑惑の影はありませんでしたが、確信したいと思つて、かつて二人で体験した事柄で私の記憶に強く残っている出来事を彼女が記憶しているかどうかと尋ね始めました。

すると彼女は、地球のことや地球上での体験は忘れないので、そのようなことは質問しないようにと私に頼みました。しかし私はどうしても確信したいと思ひましたので、二人が結婚する前に共に楽しみ合ったある出来事について尋ねてみました。すると彼女はそれを覚えていたばかりでなく、それに関連した詳細な事柄を二、三語りました。これはひとつの証明になりましたが充分ではありません。なぜなら彼女は私の想念を読み取っていたかもしれないからです。

私は彼女に「なぜ忘れたのですか」

と質問しました。すると彼女は「私たちの生活を通じて起こつた多くの小さな出来事——なかにはあまり楽しくなかった出来事もありますが——のすべてを思い出したいのですか」と聞き返しました。そして次のように語つたのです。

「人間がおとなに成長するときに、本人は楽しかろうと楽しくなろうと、時間や労力を浪費してまで自分自身の幼年時代のあらゆる出来事を思い出そうとはしません。現在というものは生きるため、学ぶため、最大限に楽しむためにこそ今ここにあるのです。ですから別な問題や別なレッスンをやつて来るにつれて、それらを解決したり学んだりするための確固たる基礎としてとめられる宇宙的な性質を帯びたレッスンだけを残して、あとは完全に忘れられねばなりません」

それはもつともなことですが、しかし私はある出来事に関してそれとなく質問を試みました。これは今から約二十年前に発生した出来事で、そのときいくらか不愉快な事もありましたが、とにかく二人である程度楽しんだ出来事なのです。彼女は記憶していません。しかもその事について私が忘れていたある詳細な内容にまで及んで私の記憶を呼びさましてくれたのです。すると彼女は話題を転じて、現在彼女が金星で行つている事について語り始めました。

過去に執着してはならない

金星では幼少の頃に互いに物事を教へ合うのが人々の習慣になつていよう

す。メリーは私たちがほとんど知つていない宇宙の法則を沢山学んでいふことと、しかもその知識を同じ惑星の年下の子供たちに伝えているということでした。もちろん彼女は現在メリーという名前などを持っていませんが、以上の記憶からして、彼女が私の妻であつた当時に彼女を知つていた人々はたしかにメリーだと言つています。

彼女が私と一緒に暮らしていた頃、宇宙の法則について私たちが議論したり、彼女がそれを理解していないと私が思ったことなどをメリーは思い出しながら微笑したのでした。たしかに彼女は私を感じていたよりもはるかに深い理解力を持つていたのです。そして彼女の現在の生命の進化のための基礎としてその理解力が役立っているのです。

また彼女はそれまで私が信じていなかったけれども彼女の現在の生活が立証している物事などを語ってくれました。しかし、だからといって私を小気味よさうに見ている様子はありません。むしろ彼女の言葉は簡潔で、しかも愛情に満ちていて、それがこんな幼い子供の口から出ることには私は驚いたのでした。

(注一)一九五四年に他界して七年後の一九六一年に十二歳ないし十四歳ぐらいに見える少女と会見たというのはいふ不合理だと思われようが、金星では子供後の成長が地球よりも早く、出生して数年後には地球人の十歳ぐらいの体格になるといふことである)

以上の体験はかつてブラザーズが私に語つてくれた話の眞実性、すなわち人間

が「死」と呼ばれる過程を通過する際に、それは全く一軒の家から他の家へ移住するにすぎないという説明を立証しています。環境に取り巻かれたその新しい家は、移住者がかつて前生で生きていた当時に自分で準備した基礎と方法如何にかかっています。私はそのことを長いあいだ信じていましたが、それを証明してもらう必要がありました。それで私はメリーに前生でこちらの山(注二)カリフォルニア州南部のパロマー山)にいた当時に存在したある状態などについて尋ねてみました。

これも彼女は覚えていましたが、しかし彼女自身の目付きや、また現在の金星での生活を十分に何の束縛もなしに生きるために過去の生活を忘れさせてくれたという彼女の願ひなどのため、私はそれ以上その問題を追求はしませんでしたが、ともかく確信しました。

そこで彼女に写真を撮らせてくれと頼みました。彼女はこれも拒絶し、写真というものは私の想念を彼女の方へ結びつけるための強力なヒモになるし、また私がその写真をだれかに見せるならば、その人の想念をも直接に彼女の方へ向かわせることになるのだと説明しました。私がこれまで何度か力説しましたように、彼女も想念の力を説いていました。

また彼女の語るところによりますと、過去を忘れないという理由は、宇宙的進歩において全然価値のない非常に多くの個人的な出来事を過去が保つているからだということでした。これは私たちの生活においてさえも眞実であることを私た

ちは知っています。

私たちはみな長いあいだ三百六十五日の毎日を送って生きてきました。毎日、各自の現在の進歩の段階にまで引き上げてくれた多くの出来事で満ちています。

しかし私たちは過ぎ去った日々の特定期な出来事をひとつひとつ思い出そうとしているではありませんか。そのどれもがすでに目的を果たしたのです。必要な場合に私たちにとつて立派に役立った多くのレッスンをすでに学んできたのです。それにもかかわらず私たちはそのレッスンを与えてくれた出来事を明るみに出そうとして過去を詮索しているではありませんか。だからこそ一生涯から他の生涯へ移動することになるのです。

自殺者、戦死者、事故死者、殺人の犠牲者の来世はどうなるか

この生まれかわりの問題を語り合っていたあいだに、自殺者、戦死者、事故死亡した人、殺人による犠牲者などの運命についてメリーに尋ねてみました。すると人間はだれもがあるレッスンを学ぶためと奉仕するために生まれてきたのだと前置きしてから彼女は次のように述べました。

「人間が何かの理由で進歩を中断されたとき本人は元の目的を完遂するために元の宇宙の教室（注Ⅱ元の惑星）で生まれねばなりません。人間は学ぶ必要のあるレッスンをまた、しなければならぬ奉仕から決して逃げ出すことはできません。恐怖、憎悪、復讐などの想念を持ち運

んでいる多数の戦死者の場合は各自が元の惑星へ帰ります（注Ⅱ元の惑星で生まれかわる）。すると今度は想念の力のために本人が前生から持ち越した精神的態度と全く同じ状態のまま生まれてきます。

大抵の場合このような精神状態を持つて生まれ出た理由は本人にも周囲の人々にも理解されません。これは今日世界が直面している無数の青少年犯罪者を生み出す原因となる一大要素になると言えます（注Ⅲ戦後の多くの非行青少年は戦死者の生まれかわりが多いの意。しかしそのレッスンは、問題の青少年と、戦死者に時宜にかなわない死亡を生ぜしめた状態にたいして責任ある、しかも青少年犯罪者を処理しなければならぬ人々（注Ⅳ戦争責任者）との両方によって学ばねばなりません。

自殺者については、これもまたみずから放棄して逃げ出そうとした諸問題を解決するために本人は元の惑星へ帰ります（注Ⅱ元の惑星で生まれかわる）。当然今度は環境は異なるでしょう。ときとしてこれは本人のためになることがあります。それはちょうどある教師について多くの困難な問題をかかえている子供が別な教師につくことによって自分のレッスンをものと容易に理解するようになり、自分の諸問題を容易に解決するようになるのと同じです」

しかし言うなれば必ずしもそうであるとは限りません。私（アダムスキー）としては、それは自分のレッスンを学ぼうとし、問題を克服しようとする個人の真実の欲求と、それとも、そのレッスンや

問題にそむいてふたたび退化するかどうかにかかっていると思います。

「事故死の場合は、ある死者は自己の天命を全うしたようにも思われ、これは新しい生涯に入つてゆくための始まりのように見えます。しかしこの場合もいつもそうだとはいりません。環境の如何にかかわらず法則は働きます。もしレッスンが成就されているならばその人はたぶん新しい教室（注Ⅴ進歩した別な惑星）でレッスンを学び続けます。そうでなければ元の教室（注Ⅱ元の惑星）へ帰るか、それとも同じ程度に発達している別な惑星へ行きます」

金星に着陸す！

さて、このコンタクト旅行で数年前私にされていた別な約束が実現しました。私は金星へ案内されてそこへ着陸したのです。この巨大な輸送機はちょうど地球のヘリコプターのようにゆっくりと垂直に下降しました。やがて地面に接近して、それから頂上の平たい建物の方へ滑空して行つてその中で停止しました。

船体の横腹に戸口が開いて、私たちは建物の中で直接に歩いて降りました。ハシゴを伝わって降りるよりもこんなふうにして建物の中へ入るのは、米国東部のある空港でアメリカン・エアラインズ社が乗客を降ろしている方法を思い出させました。米国内の他の航空会社はまだこんな設備をしていませんが、乗客が風雨にさらされないようにするために、やはりこんな設備をする計画を立てているこ

とを私は知っています。

金星の空港は着陸する宇宙船のために当然広々とした地域から成り立っています。もつとも地球の空港のような滑走路を必要としませんが。その建物の平たい頂上は小型機の着陸用に使用されます。私の見るところ、どうも三階目ぐらゐと思われる所へ一同は宇宙船から降りて、地球のエスカレーターによく似た装置によって地階に到着しました。しかし建物の他の部分が何かに利用されている様子を見えなくするために、このエスカレーターは壁で囲まれていました。

メリーの家へ行く

その日は心地よい温かい日で、空気はかぐわしく澄んでいました。到着の前日に雨が降つたというのでした。

メリーと私はかなり小型の公共輸送機に乗り込みました。これは地球のタクシ―の役目をするものです。しかし地球の乗物と違って、これはそのままどの方向にも動くことができます。機体の中には一人掛けの座席が一行に並んでいます。各座席は台座の上に取り付けてあって、そのためにどの方向にも回転することができます。まっすぐに座つたり、後方に傾いたり、とにかく最も便利で座り心地のよい姿勢に座席を調節することができます。機体全体がガラス状のドームで覆われており、周囲を広く見渡せるようになっていきますので、このため乗客は風、ゴミ、その他天候のわずわいを受けることはありません。地球人もこの種の材料の作り

方を知りさえしたら地球の各地でうまく利用できるのにと私は思いました。

この乗物は地上わずか数フィートの空間を滑空するのですが、必要ならば五十フィートまたはそれ以上に上昇するようには作られることもあります。

私たちはメリーの家へ直行して、そこで彼女は衣服を着替えたりし、私は彼女の両親に会うことになっていましたので、私たちの乗物は地面近くを滑空していました。私たちは途中で繁華街の端を通りましたが、ここの大通りは広くて所々に造園工事の施された島々が作ってありました。建物はちようど地球の都市のように大通りの両側に並んでいます。私が乗っているのと同じような小型機が道路にそって動いているのが見られます。人々が広い歩道上を歩いていました。そこで私は思いました。われわれはどこに生まれようとも生活は全く同じようなものだ。しかし私が気付いたのは、金星人は歩いていてもゆつたりしていることと、地球上の各都市でこれまで私が見てきた人々の顔よりも彼らの顔にはもっと楽しそうな表情が浮かんでいることなどです。さて、メリーの家に到着すると彼女は運転者に待っていてくれと頼みました。彼女の家は繁華街からほど遠からぬ所でありましたが、私の感じではその都市の端近くでもあったようです。それは広々とした美しく造園された地域で囲まれた控え目な家でした。その家は地球でいうならば中流程度のもですが、金星にはそんな階層などはありません。だれにも役割があつて、それのために必要品

を分け与えられるだけです。彼らの所有物には美しさがありますが、地球の少数の人によつて楽しまれるような無駄なぜいたくは見られません。

彼女の両親はきわめて快活な若い夫婦でした。メリーはその一人子です。近所の子供たちが戸外で遊んでいたが、その家の内外へ走つたりしていました。非常によくしつけられているようで、おとなしくて、他人にたいして思いやり深いようでした。以前にも聞かされていましたが、子供たちはよその家にもまるで自分の両親の家にいるかのように感じていたのです。これはおとなのすべてがおよそ子供というものを両親がだれであらうとすべて自分の子供とみなして、そのように扱っているからです。これらの子供たちはメリーの友達なのですが、その多くはメリーよりも年下なので、メリーから教えを受けています。一方、メリーは年上の人たちから教えられるのです（注：地球のような中高大という学校制度は存在しないらしい）。私たちは数分間だけここにどまりましたが、そのあいだメリーは愛らしい簡単な赤と白のプリントのドレスから、全体が純白のドレスに着替えました。両方とも簡単な作りで、ひだ飾りはなく、方らりとして体にびつたり合っていました。その家から私とメリーは数棟の大きな科学研究建築物の建ち並んでいる構内へ案内されました。ここでもメリーは運転者に待っていてくれと頼みました。その構内の美しく造園された敷地で他の人々が私たち一行に加わりましたが、

これは宇宙船内に一緒にいた人々でした。一行は三つのビルディングを通り抜けましたが、その中で設備について説明がありました。

金星の教育機関

この各教室における指導のほとんどは機械によつて行われます。私はわれわれ自身の脳の働きを理解できないのと同様に、これらの機械の働きも理解できませんでした。そこではコードが差し込まれると解答が出てくるのです。ある教室などは一千人ほどの学生を収容しているということでした。彼らはテレビ型の機械装置で指導を受けています。質問には解答が与えられ、必要ならば詳細な説明も与えられます。これは機械を操作している人によつてなされるものか、それとも機械が自動的に解答を与えるのか、私にはわかりません。

あるビルディングの中には太陽系の模型が作られており、それは成長と最後の崩壊とを示していました。また宇宙の近隣の太陽系群にたいするわれわれの太陽系の関係とその関係位置が模型で示されていました。宇宙の状態にたいする私の概念があまりに乏しいために、それを言葉で説明するのは到底不可能です。この地球と太陽系内の他の惑星群との関係にたいする理解でさえもあまりに狭すぎるために、私がそこで模型によつて表現された光景を見たまに説明することはやはりできません。私たちの前途にはたしかにまだ進まねばならない長い道と多

くの学ぶべき事柄が存在しています。しかし私が知ったことで説明のできる事がひとつあります。それは、地球人の（太陽系惑星順位の）数え方は逆であるということ。つまり地球は太陽から三番目ということになっていますが、現在の発達状態や知識などからみて実際には最後に位置するのです。なぜなら宇宙的な意味において、一太陽系というものは一番外側の惑星が最低の段階にあり、中心に近い惑星ほど進歩の程度が高くなるからです。

ところが地球は第三番目に位置するにもかかわらず、多くの戦争や個人の自我の発達のために地球人はみずからの進歩を低いままにしていたのですが、一方地球を凌駕した惑星群は地球人が数千年前に達成しているべきはずの業績を打ち立てて、戦争や自我といった制限を克服したので。地球人はこれまで何度も知識を与えられてきて、それは現在もなお地球に存在しているのですが、もつと実質的な安楽や喜びを得さしめるすぐれた知識を得ることに関心のある人がほとんどいないため、地球人は発達するかわりにからうじて足踏みをしているのです。

別なビルディングの中で私は人体やその他の物の模型を見ました。これは最も興味あるものでした。というのは、細胞と細胞との関係、細胞と細胞から成っている各器官、血液、一単位としての全身の働き、構造、脳と脳細胞の関係と働き、脳細胞が人体各部に及ぼす影響などを私が示しているからです。ここでもまた私は他の面ですべてまで考えることができ

た以上にはつきりと想念の力と想念の働
きとを知ることができました。そこで、
私はテレパシーの発達の必要性を何度も
説いてきましたが、ここでふたたび同じ
考えを強調したいと思います。つまり、
人間が自分自身の主人公になることがで
きるのは、理解力をともなった想念の応
用とオープンマインド(寛容の心)の働
きにおいてのみ可能になるということだ
す。

金星上での私の滞在は約五時間にすぎ
ませんでした、そのあいだでできるだけ
あらゆる物を見ることにつとめ、目撃し
た物すべてを記憶にとどめようと努力し
ました。その科学研究ビルディングの見
学はあまりに早く終わってしまいました。
一緒に宇宙船まで帰ることになっていた
他の人々に付き添われて、私とメリーは
待つていた乗物に入り、まもなくふたた
び空港へ帰りました。

両親よりも兄弟・姉妹の

きずなが強い

ここで少し興味ある事柄を述べまし
う。ピルのあいだでなしに別な所を歩い
ていたとき私は疲労を感じました。この
ことを考えていたら、これは私がメキシ
コ市へ行ったときに感じたのと同じ状態
であることに気がきました。それで私が
いた場所の金星の大気の圧力は、メキシ
コ市程度の海拔(注)標高約二千三百メ
ートル)に見られる気圧にたとえてよい
でしょう。場所によって呼吸の困難さが
変わるということはありませんでした。

メリーの地球上の両親と、彼女が特に
好きであったある姉は、メリーが死ぬよ
りもずっと以前に地球上の生涯を終えて
いました。前生でメリーは、この人々は
金星で生きているのだとよく口ぐせのよ
うに言っていましたので、自然、私はメ
リーと語っているあいだもこの問題に心
が傾いていましたが、べつに尋ねはしま
せんでした。すると宇宙船の中でメリー
はその問題を持ち出して次のように語っ
たのです。

彼女の現在の金星上の両親は前生の両親
ではなく、地球の両親は死後金星で生
まれかわって現在住んでおり、彼女の家
族の友達であるというのです。しかしさ
ほど深いつながりはないということでは
した。そこでメリーが充分に気付いている
のは、両親というものは一人間が新しい
肉体をもつて生まれるための入口として
役立つにすぎないという事実です。この
考えは彼女が地球にいた当時彼女にとつ
ては全く承服しがたいものでした。なぜ
なら両親と子供とのきずなを彼女はきわ
めて深く感じていたからです。また彼女
の姉も金星に(生まれかわって)住んで
いて、地球の両親(の生まれかわりであ
る人々)よりも現在はもっと親しくして
いるということでした。両親(であった人
々)とはさほど親しくありません。どう
も兄弟・姉妹・兄妹のきずなが他の血縁
関係よりももっと親密に続くように思わ
れます。もつとも、二人の人間が右の関
係のどれかにあるからといって必ずしも
次の生涯で同じ惑星に生まれかわるとい
うわけではありません。地球のメリーの

家族は大家族だったので、兄弟姉妹
のなかで右の姉だけが現在金星に住んで
いる唯一の人であるということでした。二
人の妹は今もなお地球で生きています。

靈界は存在しない

私たちの宇宙船が地球へ帰るとき、船
体の窓から外部を見るようにとすめら
れました。宇宙船は電離層の外にあつて、
空間を動いている大きささまざまな破片が
見えました。かなり大きいものもありま
す。これらは地球から打ち上げられて見失
われた人工衛星の残骸だということでした。
それらは一般に想像されているように軌
道上を飛んでいるのではなく、まるで部
屋の中で日光を受けて動きまわるホコリ
のようにさまよい動いているようでした。
こんな物もいずれば自然のガス状や極微
の粒子に還元して、宇宙の法則に従って
再生するのでしよう。

私やあなたがたにはまだ多くの疑問が
未解決のまま残っています。私は金星旅
行を体験して多くのレッスンを学んだこ
とを感謝しています。これから先の宇宙
旅行はまだ約束されていません。

しかし人間が持つことのできる最大の
確信が私に与えられました。つまり、人
間が地上の生命を終えて他界するときに、
神秘的ないわゆる「靈界」というものに
は出くわさないという事実です(注)靈
界は存在しないの意)。

現在“こそ最重要

生長と進歩の時間の長さは惑星や個人
によって相違します。人間が持ち運びの
できるすべては、本人が学び取って応用
した宇宙の法則の記憶だけです。心の
上で知っただけでは充分ではありません。
個人の記憶は必要ならば思い出すことが
できます。しかし応用されない記憶は急
速に背後へ消え去ってしまい、現在の生
活の新しい日々の要求や関心などで置き
換えられるのです。

以上の知識をあなたがたにお伝えでき
ることをうれしく思いますとともに、そ
れが「無限の生命」の道を行って生長し
進化されるあなたがたに役立つことを望
みます。私たち各人の行手に何が横たわ
っているかを今知るのは困難ですが、「無
限」という道で私たちの行手にあるもの
は、ごく最近私たちに与えられてきた知
識と証拠でもって見つめれば、それは美
しい存在です。しかし私たちは、その知
識が今ここにみずから現れる瞬間ことに
喜んでそれを応用することを学ばねばな
りません。いろいろな問題が解決を求め
て絶えずこちらへやってきます。これは
私たちがいかなる惑星へ行こうともいか
なる生涯をすごそうとも起こる事実です。
しかし私たちがいつも持ち続けるものは
永遠の「現在」だけです。その「現在」
こそ私たちの応用すべきものであつて、
私たちの知識と理解力のたくわえがいつ
までも増大するであろうことを「現在」
から学び取らねばなりません。

(注)文中太ゴシックの部分は編者が製
版所に指定したものである)

日本GAPとアダムスキー

苦闘20年。世界有数のUFOと宇宙哲学研究集団に発展！
創立活動の経緯とアダムスキー哲学の意義及び実践法を詳述。

この記事は去る6月6日の東京月例研究会
の講演内容を主体にして加筆したもの。

日本GAP会長 久保田八郎

日本GAP創立の経緯

日本GAPが創立されたのは一九六一年(昭和三十六年)九月に私(久保田)がガリ版刷りの貧弱な機関誌GAPニュースレター第一号を十数名の知人の方々に無料で発送したときです。

一九五三年(昭和二十八年)八月に郷里の書店でたった一冊埋もれていたアダムスキーの「空飛ぶ円盤実見記」を見つけて飛び上らざらんばかりに驚いた私は三日三晩興奮して眠れず、同年の九月六日付でアダムスキー(以下、省略してア氏と記す)宛に最初の手紙を送って以来、私はア氏と文通を続け、一九六五年(昭和四十年)四月二十四日付でマーサ・ウルリッチさん(現在もピスタのアダムスキー財団で健在)からア氏逝去の連絡を受けるまで膨大な数の書簡や情報文書を受取るまで受け取っていましたが、途中、一九五七年(昭和三十二年)十一月二十五日付で私宛にア氏から来た私信の中に、「日本の人々のために私はあなたの協力をお願いします」とあり(高文社刊・久保田八郎編「空飛ぶ円盤とアダムスキー」二二〇頁)更に「各国に一人の連絡員がいて自国の人々に個人的にかまたは郵便によって(ア氏からの情報)知らせる責任を引き受けることが要請されます」(同番二二二頁)とあります。これに対して編者はすぐに承諾の回答を出しますが、実質的に私が日本GAPを創立したのは一九五七年(昭和三十三年)であつたとみて差支えないでしょう。

ア氏から来たものの大半は「空飛ぶ円盤とアダムスキー」(高文社刊)に掲載されていますが、公開しなかつた書類もあつて、新しい会員の方々は内容不明でしようが、冒頭にア氏の金星旅行記「死と空間を超えて」(本号に改訳版を掲載)や土星旅行記等の重要な資料が含まれており、これらは「宇宙からの訪問者」に匹敵するほどの貴重な文献となつています。特に金星旅行記は数年間公開禁止された情報で、当時、この原文コピーを受け取つた各国GAPリーダの内、現在もこれを所有している人は、私の他にヨーロッパの二名だけと思われるほどに希少なものです。

ただし私はア氏に会つたことはありません。これについては三年前、パリでベルギーGAPリーダ、メイ・フリットクロフト夫人が述べられた次の言葉が胸に焼きついています。

「あなたはア氏に会つたことのない唯一のGAPリーダですが、それにもかかわらず、遠い東洋でこれほど長くア氏の遺志を継いで活動を続けているからこそ私たちはあなたを尊敬するのです」

この言葉は日本GAP会員の皆さん全員にも贈られるべきものです。「皆さん方はア氏に会つたことのない人ばかりですが、それにもかかわらずアダムスキー問題や宇宙哲学を研究実践されているからこそ、私は(久保田は)皆さん方を尊敬するのです」

これを更に言い替えましょう。「皆さん方の中には私(久保田)に会つ

たことのない人がおられるにもかかわらず、私を支持されるからこそ、私はその方々を尊敬するのです」

以上のとおり、日本GAPはジョージ・アダムスキーが日本人協力者・久保田八郎に要請し、それに応じて久保田八郎が個人活動として奉仕的に開始し、続行してきたもので、幹部の合議制による団体ではありません。月例研究会、総会、その他の企画で集団行動をなす場合もありますが、これらはすべて私が個人で企画立案し、ボランティアに依頼して遂行します。要するに日本GAPの活動はすべて久保田八郎個人のフィードバック、意志、信念、決断力等にもとづいて行われるのであつて、計画や会議を行う幹部団というものも存在しません。したがってGAP内にトラブルが発生した場合は久保田個人の責任において処置をとりま

す。しかし、ときには会員の方々の意見や要望等を聞いて参考にすることもありますが、良きアイデアが出されれば採用して実行に移すこともあります。また事務関係の仕事で手不足の場合は助手として会員の方に手伝って頂くこともあります。これは「団体(幹部団の合議制)にせず、個人でやりなさい」というア氏の忠告にもとづいて個人活動として続行したのです。もし幹部団合議制にしていたら、とつづく昔につぶれていたでしょう。一九六九年(昭和四十四年)に東京へ移住してから一時期幹部制を設けたことがありますが、たちまち分裂崩壊の危機にさらされたために、急遽単独活動にもどし

て命脈を保つことができました。地球の人間のエゴというものは千差万別の主張をするので、容易にまとまらないのです。

また賢明なア氏は一国に一人のGAPリーダーを置いただけで、二人のリーダーを認めようとはしませんでした。対立が生じやすいからです。また現在、ア氏の著書類の翻訳出版権を有する米ジョージ・アダムスキー財団は、一九七九年二月八日付で、ア氏の著書一切の日本語への翻訳出版権を久保田八郎に与える旨の正式文書をアリス・ウェルズ理事長とフレッド・ステックリング理事の連名で私に与えています。したがって私以外の他の人が無断で翻訳したり出版したりすることは違法行為となります。『宇宙からの訪問者』がユニバース出版社から出ているのは、出版権のみを一時的に同社に譲渡しているからで、本来は日本GAPから出版されるべきものですが、資金がないために同社に肩代わりしてもらっているわけです。ア氏の著書を無断で翻訳して大盤にコピーをとり販売していた人が関西方面にいましたが、これは違法行為ですから中止するように申し入れましたが回答がなかったため除名しました。だいたい、真のカルマを持たぬ人のア氏の著書の血の通わぬ訳を読んでも有益なものにはなりません。ここには訳文の巧拙を越えたカルミックなものがあるのです。ア氏が私を協力者に要請し、私が承諾したのは、アダムスキーという人と久保田八郎という人物とのカルミックな連携によって決定されたはずです。万象に偶然というものはありません。

必ずカルマ（原因と結果の関係）の法則が働いています。今生において非常に親しい関係にある人は過去世でも親しい関係にあったと考えられます。このカルマと過去世の問題は後述しましょう。

以上の経緯によって日本GAPは運営されてきたのですが、これにたいして、「久保田は新興宗教の教祖のようになりたがっている」といつて脱会した人が最近あります。これは見当違いもはなはだしい批判で、日本GAPの本質に関して全く理解していない妄言ですから、こうした雑音にまどわされぬようご注意下さい。

苦闘の二十年

前述のとおり、日本GAPが表面的に活動を開始したのは一九六一年九月に機関誌第一号を発行した時点です。当時私は郷里の貧弱な私立高校（現在は廃校）の教員として勤務するかたわらアダムスキーと文通を続け、情報を得ながら、町の住民にはひた隠しにしてGAPの活動を続けたのですが、学校がつぶれることを予想して、一九六九年（昭和四十四年）の夏、妻子をつれて更めて筑を背負い、東京に安住の地を求めました。しかし四十歳なかばでは就職も容易ではなく、半年間は求職でかけず回り、ついにドン底におちりました。

私はもともと田舎の貧困家庭に育った金に縁のない人間で、むかしから貧乏暮らしには慣れていますが、このときばかりはへこたれそうになりましたものの、

持ち前の強烈な信念を失わず、イメージを描いていたとおりアメリカのある大会社の日本支社の翻訳部に採用されて助かりました。この入社に際しては一種の奇跡的な現象が発生しています。

一方、GAP活動は着実に展開して、じわじわと活動範囲を拡大してゆきましたが、一九七〇年当時の会員数は二百名台でした。

機関誌の製作で苦勞したのは印刷方式です。最初は手書きのガリ版でやりましたが、部数がふえるにつれて追いつかなくなり、コスト軽減のために中古の和文タイプライターを購入して自分でタイプを打ちながら謄写原紙に製版し、それを日曜日に勤務先の職員室へ持ち込んで、輪転機を使ってこっそり印刷していました。

東京へ進出した際にこのタイプライターは輸送の関係でガタがきて使用不能におちいり、困っていたところ、ある奇特な会員の方が新品の和文タイプライターを寄贈して下さったので、岡崎活字を使って本格的な版下を自分で製作できるようになり、それで経費を浮かしながらオフセット印刷にして、立派な機関誌が発行できるようになったのです。

いまその頃の機関誌52号を手にとってみますと、活版印刷にひけをとらぬほど立派に出来ており、自分のタイプ打ち技術を自慢したくなるほどですが、一方、日中の会社勤務を終えて、夜間自宅で深更までガッチャンガッチャンとタイプを打つのは大変に難儀な仕事で、ときには疲労困憊の極に達することもありました。

しかし当時皇居裏の三番町にあった勤務先の会社には朝絶対に遅刻しないように細心の注意を払い、大妻女子大学付近まで行って、九時まであと数分しかないとした場合是一目散に走ったものです。会社にはタイムレコーダーが設置してあるので一分間遅刻しても赤字でパンチされ、これが何回か重なると部長から説教される仕組になっていたのです。しかし私は絶対に遅刻しない人間として社内で評判になり、そのおかげで五時にはきつさと退社して帰宅できるようになりました。当時は江戸川区の奥地に住んでおり、朝夕のラッシュ時には片道二時間近くかかるのですから、一刻も早く帰ってタイプ打ちをやらねばGAPの機関誌が出せないのです。

こうした生活が二年近く続いたあと会社をやめてしまい、一年ほど浪人して、次に出版社を設立して本格的なUFOの商業誌を出しましたが、しばらくはニューズレターのタイプ打ちを帰宅後自宅でやっていました。

しかし昼食時間わずか十分間という会社の勤務ではさすがに体がもたなくなり、自宅でのタイプ打ちもやめて、折からのUFOブーム（これも私が火付け役になったのですが）につれて会員数も増加しましたので、ついに56号より活版印刷に切り替えて本格的な印刷を71号まで続けたのですが、最盛期に約二千名いた会員もUFOブームの低下とともに減少しましたので資金難におちいりましたため、やむを得ず72号からはタイプ印刷所にタイプ打ちオフセット印刷を依頼して73号ま

で二回ほど続けたのですけれども、印刷の質を落とすと内容まで質が低下したかのごとき印象を会員に与えたようですから、本号からは写植(写真植字)版下によるオフセット印刷に切り替えました。

二十年間を回想すれば試行錯誤の連続で、非難・中傷・妨害等もありましたが、よくもここまでやってきたものだと思無量です。辛直に言つてこれは私の(よく言えば)強烈な信念と忍耐力、それに会員の方々の絶大なご援助のたまものであることを痛感します。しかしアダムスキー問題の啓蒙活動をこうまでつらぬいた人間が一億の日本人の中で他にいなかったというのも事実で、人間の持つカルマの意義の重要さをあらためて考えさせられます。つまりここには過去世からの脈絡というものがあるのです。

転生の問題について

ジョージ・アダムスキーによりまして、人間には十五〜十六回の転生(生まれかわり)の機会が与えられているけれども、その間に宇宙の法則に気付かず、宇宙の意識的なパワーの流れに乗った生き方をしなければ、本人は十五〜十六回の転生を最後として実体は宇宙の意識の中に還元してしまうということです。

この記事が本誌の古い号に発表された当時、会員に少なからぬショックを与えました。だれしも人間は永遠に転生すると思つていたからです。

しかし自然界の淘汰の法則、特に自然選択の法則を考えてみますと、役に立た

ぬ者はむしろ十五〜十六回で消滅するという説の方が合理的のように思われます。いつまでたつても進歩しない者をだらだらと無限に転生させていては不公平ですし、だいいち進歩しようという意志のある人にとつて迷惑です。神は無限の愛を持つ方からといって、無用なものを温存させるのではなく、不必要なものは排泄物として体外に排出してしまい、腐敗させて、ついには大地へ帰らせてしまいます。したがつて無用なものは帳消しにされるという法則が厳然と存在することがわかります。人間もこの例に洩れるものではないでしょう。

一方、十五〜十六回の転生期間中に宇宙の法則に目覚めて法則にそつた生き方をする人は、更に転生が許されて、永遠に生命の連続が得られることになるということです。

さて、人間は少なくとも十五〜十六回の転生の恩恵にあずかつているとすれば、当然のことながらだれしも過去世があるはずで、その記憶を有しているにもかかわらず、それが思い出せないのは、真の記憶を保つ実体である人体内部の宇宙的意識に対してマインド(心)を一体化させないからで、一体化させれば過去世の記憶を呼び覚ますことが可能なのだと氏は説いています。

しかしこれは容易ではありません。よほどの自己訓練を行い、修行を積まないことには、自分の過去世を思い出すことはむづかしいでしょう。

そこで人々は、他人の過去世が透視できる超能力の所有者に頼りたがります。

こうした透視能力者というものはたしかに存在しますが、テレビの画面を見るように他人の過去世の姿が鮮明に見える人はきわめて少数であり、大抵の自称透視能力者は心中に印象がチラチラ浮かぶという程度のことであるらしく、これでは誤つた印象もわいて来るので、必ずしもあてにはなりません。

しかし人間というものは弱い存在で、特に白人コンプレックスの強い日本人は「あなたの前世はどこそこの国の美しい金髪をした白人だったのだ」とか「偉大な進歩をとげた別な惑星から地球へ転生してきたのだ」などと言われると字頂天になつてしまい、相手の自称超能力者にコロリとまいって相手を権威づけるとともに自分は傲慢不遜になつたりしがちです。こうなると、こういう問題を全く信じない一般人よりも具合が悪く、そのためにトラブルが発生したことも二、三あり、私自身もひどい目にあつたことがあります。

ところが、現在は下火になつたものの、一時期、GAP内部で「過去世病」が流行したことがあり、なにがなんでも自分の過去世を知りたいとか、知人や友人同士が過去世で親しかったとか、さまざまの(真実の透視でなく)印象を交換する程度で騒ぎ合うという風潮が流行したのですが、これはつつしむべきです。

過去は忘却の彼方へ

というのは、それらが真実の透視であつたにしても、過去の出来事はすでに存

在しないのであつて、現在の自分とは何の関係もないのです。仮に私が二千年前に約百名ばかりいたエッセン同胞団の一員としてイエスの弟子であつたと透視されたにしても現在の私とは全く無関係です。私たちはそのような「お告げ」で喜ぶような甘い人間であつてはならず、むしろ現実主義者であるべきです。地球にいる私たちにとつて最重要な問題は、明日の米代を今日いかにして稼ぐかであり、今月の家賃をどのようにして払うかであり、二千年前の境遇などを持ち出して、現在の住み家を追い出されたのではどうにもなりません。

過去世ばかりではなく、今生の過去でさえも無数のつまらぬ出来事や悲しい思い出に満ちているような半生に執着して何になるでしょう。それよりも重要なものは現在の一瞬一瞬であり、未来に対する計画、決断、実行なのであつて、これが自己の将来を決定するのです。

過去に執着することが無意味で、宇宙的進歩のさまたげになることは、本号に掲載したA氏の金星旅行記「死と空間を超えて」の中で、金星人の少女に転生したかつてのアダムスキー夫人メリーが重要な示唆を与えていますし、写真さえも撮ることを拒否していることでわかります。撮影された金星人少女の写真を地球人が見ると、その想念が自分の方へ浴びせられるからだというわけです。

あまりにも高次な、この感動的な対面と対話に匹敵する記述を私は他に知りません。この少女の語る簡潔な言葉はいかなる哲学や宗教をも凌駕しています。

カルマとは何か

カルマの問題に返りましょう。過去に執着することは宇宙的進歩の障害になるとはいつても、転生の法則を無視しようというのではありません。むしろ私などはだれよりも強く転生の法則と事実を確信しているつもりですが、これは過去にではなく未来のために生かされねばなりません。なぜなら現在の自己の姿や環境などは過去に自分がまいたタネの結果ですから、現在まくタネは未来の自分を決定するに違いないからです。これは原因と結果の法則であつて、これを私たちはカルマと呼んでおり、更に「宿命」という意味にも用いています。

カルマというのは古代インドのサンスクリットの「カルマン」という語がなまされたもので、本来は「行為」という意味ですが、人間の行為によって死後の運命が決定するというので、宿命のための原因というような意味になり、後にウパニシャッドの哲人ヤージュニヤヴァルキヤが、善き行為によって死後の運命は善きものとなり、悪い行為は悪い運命を作ると規定して以来、それが法則化されました。

しかし私たちがカルマという場合は、原因と結果の法則、因果関係、更に宿命というような幅広い意味に用いており、必ずしもサンスクリットの原義にはこだわられません。たとえば私自身が今生でGAP活動に専念するようになったのは過去世からのカルマによるものである、と

いうふうに表現します。言い換えれば偶然の結果ではないというわけです。

だが私たちは宿命論者ではありません。人間の一生涯における宿命は大体にきまつているようですが、些細な物事まですべて宿命によってがんじがらめに縛られているというように考えますと、身動きできなくなつて、未来への希望は消滅してしまいます。

人間の運命は原因次第で結果的にはどのようなものなるのであつて、善き因果関係を確立することが明るい未来をもたらしますから、これを善きカルマを作るといふふうに表示します。たとえば私自身は今世で政治家になるカルマは持つておらず、別な道を歩みながら人生を学ぶのですけれども、職業や環境が何であるにせよ、一つの人生を明暗いずれにするかは私自身の作るカルマにかかつています。善き原因を作れば善き結果が生じるのです。

愛はきびしいもの

世の中には、やたらと愛の精神を説く人があつて、言葉の上では立派そうに見えますが、本人の行為を見ると、なァーんだ、何でもありやしなないじやないか、という例が見受けられます。

およそ愛という言葉ほど安直に語られる言葉はありません。「あの人には愛の精神がない」と言つてしまえばたちまち相手は不当化され、自分が正当化されるのですから、他人を非難するのにこれほど便利な言葉はありません。

大体に、やたらと愛の精神について説きたがる人は実際には本人が愛に餓えていた場合が多く、案外に破壊的な事をやりますが、これは精神分析的に言えば一種のシゾイド人間（分裂人間）です。（慶大医学部助教・医博・小此木啓吾著「シゾイド人間」より）

愛という問題は一般の素人が考えるほどに安易なものではないのですが、人間にとつてこれほど重要なものもありません。だから古来、多くの哲人によつて定義づけられたのですが、ざつとあげてもプラトン、アリストテレス、スピノザ、カント、フロイトなどの説く愛があり、またキリスト教で説く神の愛もあります。「そんな屁理屈をこねなくてもただ他人を愛すればよいのだ」というような非論理的な考え方は愛が生かされません。

「一つの美しい肉体から二つの美しい肉体へ、そしてあらゆる美しい肉体へ」という有名な言葉で始まるプラトンの愛なるものは、究極的には完成された美そのものであるイデアの世界の認識に到達することを意味しています。

これはアダムスキーの宇宙哲学を側面から説いたものにほかなりません。なぜならプラトンの言うイデアはア氏の説く宇宙の意識により完成された四次元的な世界と同一であると思われるからです。とにかく愛という問題は非常に深遠ですから、軽々しく言及するわけにはゆきません。ただ、真実の愛とは何かを知るには、皆さんはプラトンよりもア氏の宇宙哲学を学ぶほうがよいでしょう。マインド（心）と宇宙の意識の一体性を理解

してこそ真の愛の実践が生じると思われるからです。真の愛には英知が伴うはずで、そのときこそ愛が生かされるのです。集団内部で混乱を発生させる無法者を統制責任者たる者がヘラヘラ笑つて見ているのが愛ではありません。毅然たる態度で混乱防止の処置をとり、本人に反省の機会を与えることが本人と多数者に対する愛です。

しかしどんな悪人にも創造主の息はかかつており、体内には宇宙の意識が満ちているのですから、その意味で私たちは本人内部の神性は尊重しなくてはなりません。本人のマインドがあまりに低次である場合は、摂理の手によつて反省を強いられるときがいずれくるでしょう。

賢明さ、常識、マナー

私たちはア氏の宇宙哲学、宇宙科学という高次な分野を学んでいます。これはつまり各自の求道精神による自己開発とコスミック・マン（宇宙的人間）への志向が動機となつていからで、人間の生きるための目標として最高といえるでしょう。

しかしそのためには猪突猛進を避けて賢明に行動する必要があります。この場合の賢明さとは学識とは関係ありません。「自分が何をやるうとしているか」が自分にわかっている人が賢明な人間です。バイブルにはイエスは死の直前に「神よ、なぜ私を見捨て給うのか」と愚痴をこぼしたとありますが、昔ある方面から聞いたところによれば、これは誤りで、實際

は「神よ、(自分を救そうとしている)この人たちを見捨てないようにして下さい。この人たちは、自分が何をやろうとしているのかを知らないのです」と言つたのが正しいということだ。

「自分のことは自分がよく知っている」と大抵の人は言うでしょうが、案外知っていない、というよりも結果がどうなるかを考えないのが普通です。

そこで例のアルフォイの神殿の扉に刻まれた有名な言葉「汝自身を知れ」が輝かしく浮かび上がってきます。アダムスキーは、賢明さとは自分の内部を通過する想念のすべてに気付くことだと言っています。ここまでに至るのは至難の業であるにしても(偉大な進化をとげた異星人はこれが可能であるらしい)、私たちはせめて自分の行為が何を意味するのか、どのような結果をもたらすかを徹底的に考えてから行動に移し、その結果が思わしくなければ卒直に反省して、態度や考えを改めればよいのです。この簡単な事が案外にむづかしく、人は失敗を認めようとはせず、責任をのがれようとしてます。

私たちは一般人からほとんど相手にされないアダムスキー問題を研究実践しているのですから、大抵、キチガイの集団とみなされがちなので、この際、互いに調和し、激励し合い、自己の非を認めたら卒直に謝って和気あいあいたる雰囲気をかもし出すように努力しようではありませんか。

そのためには、まず常識を豊かにし、洗練されたマナーを身につけることが大

切で、これを土台にしないで、いくら宇宙の法則だの愛の精神だのと叫んだところで無意味です。ここで言う常識とは、「地球以外の惑星には人間はいないという説が常識化している」というような常識ではなくて、対他的な言動などにおいて他人に不快感を与えぬようにしようという配慮を意味します。具体的に言えば、日本GAPの会員諸兄姉には本当の意味での紳士淑女の集団になって頂きたいのです。ていねいな言葉使い、礼儀正しさにこやかな応待など、個人の改良点はいくらでもありますから、大いに改良し、美しい調和した明るい雰囲気をかもし出すように心がけて下されば幸いです。これも理想論だけではだめですから、その意味で今夏の海外研修旅行参加者に配布した「食事、入浴、その他のマナーについて」と題するパンフレットの余分を安価に頒布しますので実際のマナーを身につけられることを望みます。希望者は別掲広告をご参照の上、ご注文下さい。

指導者はアダムスキーのみ

日本GAPはある意味で一種のコズミック・スクール(宇宙学園)と言えるでしょうが、唯一の指導者はジョージ・アダムスキーであって、ア氏の偉大な遺産である著書類をテキストにすれば、あとは一切不要です。私はその橋渡しをしているにすぎません。私も身もまだ学ぶべき事が沢山あり、宇宙の一学徒として前進しなければならぬのです。したがって充分な指導は不可能ですが、常識豊かに

して真面目に探求しようとする人にはできる限り援助の手を差し延べますから、何なりとご相談下さい。

「生命の科学」で起る奇跡

日本GAPはUFO問題よりも、どちらかという哲学面に主体をおいていますが、これは未確認飛行物体の調査研究よりも、人間としてのあり方から研究を始めることが重要だという見地にもつくものです。

そこで重要なテキストになるのはア氏の「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」ですが、最重要なのは「生命の科学」で、これを学習して実践すれば個人の肉体か環境に何らかの奇跡が発生するとア氏は述べていますが、たしかにそのとおりなのです。同書一六〇頁に次のような説明があります。

「換言すれば『どんなアイデアが浮かぼうともそれは必ず実現する』という絶対的な確信が各人の中になければならぬのです」

更に一六一頁には

「何かを現象化しようと思う場合に、それを生み出す意識の能力は無限であるという確信と共に、その物事の意識的な写真を持つのです。次にその写真真中のアイデアを捨てないようにし、それを現象化せしめるのに言葉による命令が充分な確信と共に与えられねばなりません」とあります。ポイントはこちらです。

これは「〇〇は必ず実現する」と反覆思念することを意味するもので、こ

の信念の魔力ともいべき神秘的な思念力の応用により、奇跡的に難病を治癒せしめたり、望ましい物事を実現させたりできるのです。難病を治すためには「〇〇は治る、治る、治る、治る」と何千回、何万回も言葉を口に出して繰り返して唱え続けるのです。すると、突然、一大変化が生じて、奇跡的に難病が治り、驚喜することになります。この唱え言葉を私はミラクルワード(奇跡を起こす言葉)と名付けて奨励していますが、これを実践して八年米のアレルギー症を奇跡的に治した黒田保夫氏の実例が、本誌73号一六頁に「ミラクルワードにより奇跡が発生」と題して掲載されています。

これを唱えるときは同時に心中に、すでに実現してしまった強烈なイメージを描くことが必要で、これを「イメージ法」と呼んでいます。たとえば難病を治そうと思えば、すでに治ってしまったと健康体になつている自分の姿、喜び勇んで飛び跳ねている姿を心中にはっきりと描きながら、同時に「治る、治る、治った、治った」というような言葉を数千回、数万回と繰り返すといのです。

ただし骨折などの場合、いくらミラクルワードを唱えても折れた手足が自然につながらるわけはありませんので、そのときは急速に病院で治療を受ける必要があります。医学という科学で治療するものならば大いに科学の恩恵に浴すべきです。ここでミラクルワードを奨励するのは医学で見放された難病を治そうとする場合です。

五月二十四日に行われた仙台・山形合

同支部大会の席上、柴田文子さん（山形県）は信念の力により奇跡的に海外旅行に参加できたという貴重な体験を話されました。他にも病氣治療以外にいろいろと実例があります。

私はこうした奇跡発生の実例を集めて「奇跡を起こす信念の魔力（仮題）」という書物を出そうと思っておりますので、何らかの奇跡的な体験をなさった方はぜひ私宛にレポートを送って下さるようお願いいたします。

人体コンピュータと意識プログラム

なぜミラクルワードを唱えイメージを描けば病気が治ったり望ましい物事が実現するのか？ この理由は科学的には不可解ですが、人体の細胞は意識的な実体ですから、これに強烈な想念を吹き込めば、送念者のイメージどおりに細胞が一種の鋳型にはめられたように肉体を変化させる働きをするのではないかと考えられます。つまり肉体とは可塑性の物体であって、想念は鋳型です。したがって人間は自分の想念どおりの人物になるのであって、このことは「宇宙からの訪問者」の第二部で、偉大な異星人マスターも説いています。

この素晴らしい原理を応用しないということはありません。自己の環境や運命まで変化するというのは神秘的ですが、これも言葉（想念）の有する波動と何かが同調して望ましい物事が引き寄せられるのだと考えるのでしよう。

そこで私は人体を超精密なコンピュー

ターとみだてて、これにプログラムを組み込んでやればその方向に作動するはずだと考え、これを意識プログラムと名付けています。この場合のプログラムは言葉による反覆想念であり、イメージであるわけです。

こうみると一般地球人は意識プログラムなしの単なる形骸として人体コンピュータを維持しているにすぎないということになりそうです。機械としてのコンピュータはプログラムなしではどうにもならぬ代物ですが、ただしプログラム次第では手に負えぬ怪物になることは名画「二〇〇一年宇宙の旅」でも知られているとおりです。あれはフィクションですが、早く言えばすでに人間がコンピュータに振り回されている時代が来ていると言えないでしようか。

それはともかくとして、意識プログラムを組み込む場合、つまり反覆して言葉を唱える場合は、「治る、治る」という場合の最初の言葉を宇宙全体から轟々と響いてくるようなフィーリングで唱え、次の「治る」という言葉は、肉体内の全細胞群がそれに呼応していつせいに唱和するというイメージを描きながら唱えます。このときの全細胞群は微小な自分自身の姿とみて、そのようなイメージを描くとおお効果的です。周囲に人がいるような場所では低い声で、人がいない場所では大きな声で唱えるのです。

自己の運命の改善を図る場合は最初に「私の運命は」と前置きして、次に「よくなる、よくなる」と、やはり宇宙から響く大合唱と自身の全細胞群による反

覆唱和のつもりで万遍となく繰り返しますと、あるとき突然、奇跡的に運命が好転するはずですが、その他、望ましい物事の實現には何にでも応用できますから、ぜひ試してみてください。

実践による救いと宇宙的向上

アダムスキー哲学はこうした実践による救いを伴う哲学であって、単なる觀念の空転ではありません。別惑星の偉大な発達をとげた人類が、地球式に換算して数百歳も生きながら、見た眼には二十歳そこそこしか見えないというのは、高度な環境もさることながら、私たち地球人の想像を絶した「想念の応用法」を会得して実践しているからだと考えられます。地球人は想念の使い方を知らないということですが、これが地球人の最大の欠陥ということになるのでしよう。

私たちはア氏問題について趣味の段階をはるかに超えて、まず自己改良の原点とし、次に自己の意識を宇宙の彼方に拡張するためのテレスコープたらしめる必要があります。それには真剣さとフィーリングと信念が必要なのであって、遊び半分ではだめなのです。

もちろん人間の理解力や発達度は千差万別ですから、なかには脱落しそうになつて悩む人もあるでしよう。その場合は大勢で激励し、なんとか彼岸へ連れて行くように援助してあげて下さい。こうした美しい実例も日本GAP内にはかなりあります。

安直に愛の精神などを説いて何もしな

いよりも、思慮深く、黙って親切な行為をなす方がはるかに高貴な態度です。

超能力開発も必要

宇宙人に会った人が必ずしも宇宙的ではないと言う人がありますが、これはアダムスキー的考え方ではありません。偉大な異星人は、宇宙的な人でなければコンタクトをしないでしょう。これは前述のとおり、深遠なカルミックな問題もありますが、本人に大気圏外に向かおうとする拡張された意識がないとだめなのです。

またテレパシクな感知力、透視力等も必要です。なぜなら異星人と自称する人間から呼びとめられ、誘いかけられたりした場合、相手が本物かニセ物かを見抜く力がコンタクトマンには必要なのです。

したがってコンタクトを望む人にはテレパシクな能力の開発は不可欠ですから、これの真剣な自己訓練をおすすめします。こうした超能力（超能力という言葉を私はあまり好みませんが）の開発にもミラクルワードによる意識プログラムが絶大な効果を發揮します。ある会員の方は「生命の科学」の一部分を自分で朗読し、テープに録音したものを聴きながら透視力の開発にある程度成功したという報告を寄せています。これも一種の意識プログラムと言えるでしょう。方法はいろいろありますから、自分で工夫してみるとよいでしょう。とにかく事の成否は自分自身にかかっています。

超低空に舞い降りた 円盤!

末永雅仁

〔日本GAP熊本支部〕

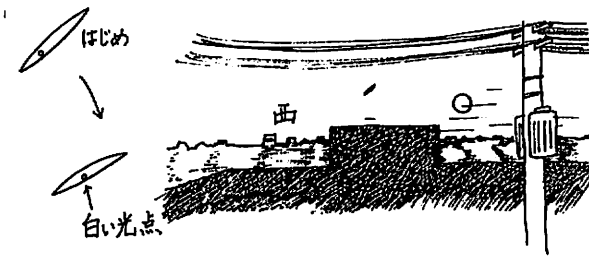
最初の目撃

僕が初めてUFOを見たのは一九七一年で、中学二年の時です。当時は日記をつけるという習慣がなかったので、日時は詳しく思い出せませんが、とても天気の良い夏の夕方だったと思います。

夕焼けが特にきれいだったので、学校の三階へ上がって日没の様子を眺めているうちに偶然、不思議な物体を見つけたのです。沈みかけた太陽の左側の、ちょうど腕を伸ばして指を五センチ程開いた位置に紡錘形の細長い物体が四十五度程に傾いて浮かんでいるのに気付いたので、月や太陽の見かけ上の大きさはほとんど同じで、五円硬貨を手にとって腕一杯伸ばした時の五円玉の穴の大ききぐらいいのですが、この物体の縦の長さは太陽の直径の半分程で、薄いレンズを真横から見た形に似ていました。夢中になって見ているうちに先輩のTさんが通りかかったので、「変な物が見えるのですけど、何だと思われませんか」と僕が教えて、それから二人で観察したのです。全体の色は薄い金色で、船体には窓や継ぎ目はな

いように輪郭は周囲の空と明瞭に区別できませんでした。船体の中央より少し下の部分に、金星よりもずっと明るい白色光を放っているのが特色でした。目撃時間の十分程の間に、船体はほとんど静止して、わずかに傾きを加えて地平線に対し

No. 1 1971



三十度になっただけでした。

物体は地平線の上方にあるようにも見えただけで、距離は少なくとも十キロメートル以上はあったと思います。陽が沈むにつれてUFOの周囲の空が同じ色になり、次第に船体との区別がつかなくなっ て見えなくなったのですが、飛び去ったために見えなくなったのではないようでした。

二回目の目撃——完全な球体

二回目は一九七二年の秋で、この時は日記に書いたので、探せばはつきりする事でしょうが、確か十月ごろだったと思います。時刻は夜の十一時半でした。よく晴れて満月に近い月のでている風の強い夜でした。北向きの窓のすぐ横に置かれたベッドに横になって夜空を眺めていたのです。突然、北極星の上方に、朱色がかかったオレンジ色の強い光体が見えたのです。最初は飛行機の夜間灯かと思ったのですが、月夜の明るい空に、黒く見えるはずの機体がなく、飛び方もめらかではなくて少し震動しているようでした。飛行機やヘリコプターの夜間灯は、機影が見えるほどの近さを飛ぶ場合以外は、単なる大ききない光点にしか見えませんが、この光体は月の視直径の四分の一程の大ききで完全な球形でした。僕は視力が一・五と良い方なので、それでもかなり詳しく観測できました。表面は窓も継ぎ目もなく、普通の推進法ではないようでした。細かく震動しながらゆっくりと天頂の方へ飛んできて、

やがて窓わくに遮られて見ることができなくなる迄の十五秒程見えていました。天頂付近に来た時も、見かけの大ききはあまり変わらなかつたので飛行高度はかなりあったと思います。興奮して眠れずにいると、十一時四十五分頃、再び天頂から北へと光体が飛行するのが見えました。速さはさつきと同じぐらいで見落とした特徴を充分観察できました。特に不思議だったのはその光で、百メートルほどの距離にある街灯ほどの明るさであったにもかかわらず、周囲に光芒が全くないとても柔らかな光でした。船体の輪郭の周囲の空間も、ある厚みで淡い白色に輝いていて、一種のフォースフィールドではないかと思いました。飛行音は全く聞こえませんでした。

以上の二回はいずれも宮崎市内の大和町で見たものです。このような体験の後どうしても宇宙人が地球へ来ているという事実を認めないわけにはゆかず、自分なりに興味を持って、理解も深まってゆきました。UFOについて書かれた本を読みあさるようになり、研究者という人々、とりわけ否定論者や攻撃論者が自分ではUFOの目撃体験がない場合が多いという事が僕にはおかしく思えたものです。またSF作品の多くもUFOに関しては全く見当外れで、現実の方がはるかにすごいのだと思うようになりました。「コスモ」は八号から購読するようになったのですが、十四号の「円盤をよく見る人」という池田雅行さんの記事が僕にとって転機となったのです。それまでの二回の目撃はあくまで「偶然」によるも

のだったので、時おりUFOの本の中にみかける「UFOを呼んだ」という事件は稀なケースなのだろうと考えていたのです。

三回目―七機の宇宙船

三回目の目撃は一九七五年十月六日午前二時半でした。当時、下宿していたため夜間外出も自由だったので、手紙を投函しに外出した帰りに近くの空地で星を見ていたのです。この空地は駐車場になっていて、車のボンネットの上におおむけになると首が疲れなくて済むのです。五分に一度は流れ星が流れたので、初めはそちらを観測していたのです。それから池田さんの記事を思い出して、半信半疑ながらも、「円盤を見せてください」と何度も心の中で呼びかけてみたのです。始めてから二十分程経ったころ、突然、視野の端の方の正確に真北の方向から、七機の楕円形の宇宙船が百二十度程に散開して、すごい速度で天頂を過ぎて、南方の地平線から三十度位の所で見えなくなったのです。北極星のあたりから南の仰角三十度まで飛ぶのにわずか一・五秒ほどでしたが、非常に印象がよく記憶に残っています。各機体の色は完全な黒色で、月ぐらいの大きさでした。七機の編隊全体の大きさはオリオン座程度だったと思います。天頂付近を過ぎる時、一番西側の一機が隊列から離れ、まるで直角定規の辺をたどるかのような急な方向変換をしたのです。僕の位置を知っていることを示すために、意図的にそうした

しか考えられませんでした。飛行音は全然聞こえませんでした。

真黒なUFOがどうして見えるのかと疑問に思う人もいるでしょうが、市街地の空は夜間でもかなり明るくて機影を識別することは可能です。それでも、このUFOを見たのは宮崎市内でもおそらく自分一人だろうとは思いました。

目撃中は観察するのがやっとで、他のことは何も考えませんでした。終わってから表現しようのない感動がありました。以前の体験もあつたため、恐怖感はなくありませんでした。一時間程呼びかけを続けてから部屋へ戻り、詳しく記録

をつけたのです。次の日も試してみましたが現れてはくれませんでした。

呼出し実験に応じて出る

十月八日の夜、同じ下宿のU君を脱得して、宮崎市船塚町の同じ空地で呼出し実験をしました。駐車してあるトラックの荷台の上に並んで横になり呼びかけを始めたのです。月は七時ごろ沈んでいて雲一つないきれいな星空でした。今度は一機で、色は灰色がかつた黒で後部に三個の弱い光点がありました。飛行経路と継続時間は六日とほぼ同じでしたが、天頂よりやや東よりを通過しました。目撃後、腕時計で時刻を確かめると九日の午前〇時五分でした。

疑っていたU君もかなり興奮して、もつとやろうということになって続いていると、一時半頃、再び出現しました。今度は天頂付近に現れて南西の方向へと飛行しました。大きさは定規を手にもつて腕を伸ばして約二センチでした。

最大の特徴はビコビコビコビコとかビキユビキユビキユというかなりはつきりした音が聴こえたことで、並んでねそべっている二人の頭の中間の位置から音がしたということです。この音は飛行音ではなく目的を持って発生させた音だとしか考えようがありませんでした。

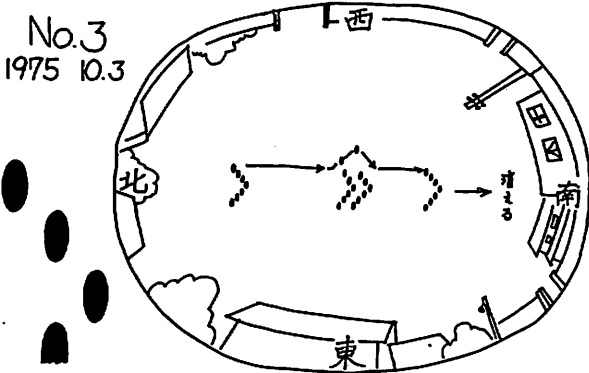
その夜は明け方まで呼出しを続けました。十月十日の午前一時に六回目を見ました。この時もU君と一緒に。形状は五回目と同じですが、少し大きく見えました。天頂より少し北側から東の方へと

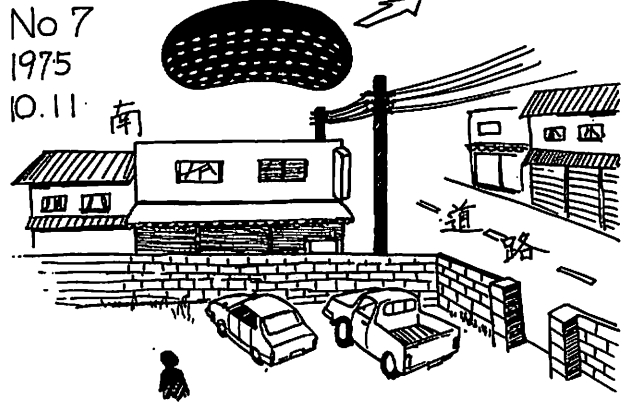
約一秒で飛びました。

円盤、超低空に出現

十月十一日、土曜日の午後十一時十五分に七回目の目撃。この日は空全体が曇っていて目撃後、小雨が降りだしました。空地へ行って思念を集中しはじめたから三分程経った時、空地の南側にあるモルタル造りの二階建の八百屋の上に突然現れました。高度はせいぜい二十メートルほどで、超低空といえるでしょう。道路沿いに立っている高圧電柱のすぐ上に浮かんでいるという感じで、音は全然しませんでした。全く予想もしない近さと大きさであつたので唖然としてしまいました。形は楕円形よりも少し変形していてソラマメのようで、大きさは横幅が十メートル、縦が五メートルほどでした。

全体の色は無反射の黒色で、底面全域に楕円形の緑色の光斑が並んで輝いていました。かなりあわてていたのです、その数は不明ですが、一列に十個ぐらいつつ五・六列並んでいたようなのでかなりの数です。一個一個の色は信号機の緑色より少し淡い色で、たいへん明るく、もしカメラを持っていたなら見事な写真が撮れたであろうと、あとで悔やまれたほどでした。これまで例と比べると、とてもゆっくりした速度で、僕の上の方よりやや西よりの位置を過ぎて、高圧線沿いに北の方へ滑るように飛んでゆきました。北の方の五百メートル程のところにある宮崎神宮の森の上空まで行ったところ突然消えてしまうまでの約五秒ぐら見え





No 7
1975
10.11

いました。
奇妙だったのは、出現時と消滅時のように、地平線の彼方から飛来し、再び地平線へと飛行したのではなく、建物の屋根の上方の空中に突然現れ、神宮の森の中空で消えたということです。目にも止まらぬ速度で飛んで来て、スピードを落とし、それから再び高速で飛び去ったというのでもないようだし、テレポーテーションによる出現・消滅でもないようでした。最も有力な仮説として考えられたのは、このUFOは自由に可視・不可視状に成り得るのではないかとということでした。推進法は、重力コントロールとか反重力とか磁力推進とかいわれているどれかの進歩した形式だろうと思われ

ました。というのは、最接近時には、石を投げれば届くほどの距離であったにもかかわらず全く無音でしたし、他の目撃報告によくある電磁効果も感じられず、「静か」だったからです。高圧電線の上方を通過したのに、付近で停電したというような話も聞きませんでした。船体以外の周囲の空間に何の影響も与えずに飛行できるというのは、他のUFOに比較してみてもかなり進歩した技術を持っているのではないかと考えられました。底部全面に散らばっていた緑色の光点は決して窓のようなものではないようで、推測の域を出ませんが、何か推進方法と関係があるのではないかと思われました。またこの時、無音飛行をしたことから午前九日午前に聞こえた音は飛行音ではなく、何らかの方法で投射したものでだろうと推測されます。

まるでネオンサインを並べたかのような明るい物体が超低空で飛んだにもかかわらず、付近で他にUFOを観たという人はいないようでした。この空地は、宮崎大学農学部前に通じる、夜間でもかなり人通りの多い道路に面している車の通行も多いし、夜遅くまでラーメン屋や酒屋へ行く大学生も多いのです。しかし、目撃時刻の前後は、まるで人通りが絶えたように静かであったことを覚えています。他にも目撃者がいるかもしれないと思っ、新聞にも注意していたのですが何の報道もありませんでした。

目撃後、宮大農学部の正門前の公衆電話から気象台に電話して、雲の高さを確認してみました。雲の高度の測定はして

いないということでしたが、無理を言っで頼みこんだところ、わざわざ外へ出ておよそ千メートルぐらいだろうと教えてくださいました。少なくともUFOまでの距離は一キロということになるでしょうが、高度千メートルだとするとUFOの大きさも百メートルを越す計算になるし、実際、感じられた距離感からも高度は十一・三十メートルだろうと思われま

す。十月十二日の夜八時過ぎにも、垂れこめた雨雲の合間を一時、白いものが北から南へ動いたように見えました。形もはっきりしないし、雲に反射した車のヘッドライトの光である可能性もあるのあまり重要視してはいません。
十一日のUFOはたいへん明るく、これと同じような物が、もう一度現れてくれればフィルムにも撮ることができたらと思う、友人からヤシカエレクトロ35というEEカメラを借り、カラーフィルムを入れてその後の呼出し実験に臨みました。十月六日以来、連日のように成功しているかと思われるでしょうが、勿論、試してみても現れない日もかなりあったわけですから。しばらく熱が冷めて、再開したのは二十日過ぎでした。

ブーメラン型UFOを見る

二十五日の午後十時五十分ごろ九回目を見ました。この時はよく晴れていて、月は東の地平線から二十度ぐらいのところであり、全天に雲はありませんでした。呼びかけを始めて二十五分ほどしたとき、南から天頂を通過して北の空へと一秒ほど

で動きました。形は長円形とソラマメ型の中間ぐらいで、大きさはオリオン座の三つ星ぐらいに見えました。色は黒色が主で、中央部は白くじんだような弱い光を放っていたことが今までのと違う特徴でした。この時もカメラを持っていなかったのですが、目撃後あわてて下宿へ戻り、今度はシャッターに指を置いて待機しました。午後十一時三十分ごろ、今度は北の空のカシオペア座の下から東の方へと飛ぶのが見えました。僕はトラックの荷台にあおむけになって観測していたのですが、あわてて上体を起こしてシャッターを切ったので、どうもブレたようでした。ブーメランをななめ下から見たような形で、色は黒を基調に、今度は中央が薄い黄色に弱く光っていました。見かけの大きさは三十分前より、やや大きかったようです。おそらく同じUFOが少し色を変えて飛んでくれたのだろうと思ったのですが、細長くブーメラン型に胴部が折れているのが奇妙でした。中央部の色は薄い黄色というか、だいたい色ですが、「光っている常夜灯に近い色なのですが、「光っている」という表現より、光がにじんでいると言う方がより適当でしょう。

撮影後、カメラのセット状態を調べてみたら、絞りがF16になっていて、EEカメラの機能上、当然、シャッタースピードが遅くなっているはずで大失敗をしたことに気付いたのです。現像されたネガを調べてみても、一応、光は写っているのですが、ブレがひどくて肉眼で見たときの光の形とはだいぶ違って、証

擬としては不十分なものでした。

半年ほど観測を中断して、再び目撃したのは一九七六年四月二十二日午前四時でした。場所は同じ空地で、全天に雲が垂れこめていました。約一秒間で、仰角六十度の南南東の位置に出現し天頂の東より通って北北西の空の仰角三十度あたりで急に消滅しました。形は細い長円形で、縦の長さは月の視直径の二倍ほどで色は完全な黒でした。半年ぶりなのに彼らが忘れてくれないことが判つて、たいへん嬉しく感じたことをおぼえています。

五月二日は二回出現しました。この夜は月もなく雲もなく、全天が澄み切った美しい星空でした。午前三時十五分ごろから開始して、六分後、北西から天頂の北東よりの所を通過して南東へ飛ぶのが見えました。時間は〇・五秒くらいで、形も不明なほどかすかなものであったので、自分でも、はたしてUFOかどうか判別に苦しんだほどでした。しかし、九分後の午前三時三十分、今度ははっきりした形で、まるで流星のような速度で東から西へと流れたので、先程の「未確認飛行物体」もやはり円盤であったことが確認できたのです。この時の見かけ上の大きさは北斗七星のひしやくの柄の二番目と三番目の星の間隔でした。例の楕円形ないしソラマメ型の円盤であることは確かでしたが、かすかに白く光っていたということ以外、詳細は不明です。

この後、しばらく観測熱は冷めて、もっぱらUFO関連の資料の収集に努めていました。勿論、途中で何度か、思い出

したように試してはみたのですが、現れてはくれなかったのです。おそらく、熱心さが不足していたことが原因であろうと思います。

またもブーメラン型が……

一九七九年十月二十五日、熊本市内で十三回目の目撃をしました。目撃場所は二階建のビルの屋上です。時刻は午前五時で、快晴で空はかなり明るかったです。四時ごろから一人で流星や人工衛星を眺めていたのですが、そのうち試してみようと思ひ、思念を集中して呼びかけてみたのです。日の出前二十分くらいで、空には未だ明るい星が残っていました。天頂付近よりやや東南東の位置から、天頂を過ぎて西北西の方向へ音もなく、

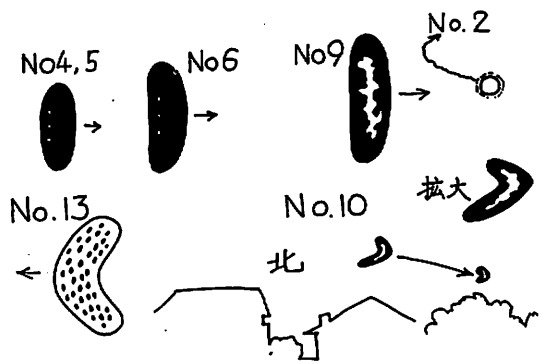
太いブーメラン型の物体が移動しました。全体はぼんやりとしたブーメラン型の輪郭で、大部分は透明か半透明のようで空の色にちかく、すりガラスが空をすべつたようでした。そのブーメラン型の輪郭の中に黒い小さな斑点がいくつも散らばっていたので、鳥の群れがたまたまブーメラン型の隊列に飛んだのかも思われましたが、やはり形が整いすぎていたようです。目撃は半秒ほどで、眼を凝らした時には空に溶けこむかのように不可視状となっていました。大きさはカシオペア座程です。

最後の十四回目はこの五日後の十月三十日午前一時三十六分、場所は同じ屋上です。天気は快晴で全天に雲はありませんでした。天頂付近がけらうのよう

に揺らいたので、その動きを追ってゆくと、ほとんど直角に開いたブーメラン状のUFOと判明しました。天頂から真西の方へ四十度ほど移動した所で見えなくなり、形を認めるのがやっとでした。本体の色は黒いわけでもなくて、ほとんど明るさも色も背景の夜空と変わらないくらいで、要するにブーメラン型に夜空が揺らめいて、そのまま西へ動いたという感じでした。大きさは先日と同じくらいで、カシオペアよりやや小さいようでした。この時、月は既に西に沈んでいました。以前のと比較すると明瞭さにはやや欠けるものの、やはり同タイプのUFOだと確信しています。

熱心さに必ずこたえてくれる？

なぜ同じ円盤が幾度にもわたって姿を見せてくれたのか今もって不明なのですが、おそらく、何らかの方法で我々の思考を読みとることができ、一度チェックした人に対しては継続して関心を払っているのではないのでしょうか。彼等が友好的かどうかという点については、僕の体験からは断定はできませんが、この宇宙人には何かユーモアのようなものさを感じることができたことは確かです。僕にはテレパシクな能力など特別な力はありませんから、彼らの「受信力」が優れているのでしよう。ということはある程度熱心に試してみさえすれば、誰にでも同じチャンスが与えられるのではないのでしょうか。おそらくは遠い星々からやって来たであろう宇宙船を一度でも自分の眼



で見ていることは、どんな本や理論によるよりも全価値観を変革してくれることでしょう。彼等の飛来目的の一つは我々の意識を変革してゆくことなのではないのでしょうか。僕の目撃したものだけで三種、アダムスキー型をはじめ、信頼できる事件だけを数えても現在、数十の世界がなぜか地球に注目しているということになります。

ただ、UFOを見た、見ないというレベルに留まらず、その意味をどこまで探究してゆけるかということが各人に与えられた課題なのではないかと考えます。

(筆者は熊本大学医学部学生)

静岡支部大会

●五月四日(月)午後一時～五時
 ●静岡交通ビル4階ホール
 ●出席者 六十四名

茶畑の新緑も目に染みる五月四日、日本GAP静岡支部大会が、北は青森、山形、南は愛媛、福岡、その他全国から熱心なみなさまのご参加をいただき、また久保田先生には大変お忙しいなかをご出席いただき、静岡支部発足以来、最高に高揚した雰囲気の中開催されました。

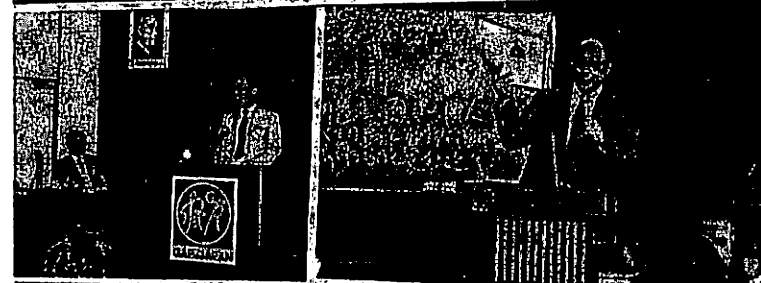
今回の大会の準備で最も気にかかったのは、宿泊ホテルと会場探しでした。この五月の連休は静岡で医療関係の全国大会があり、そのため市内のホテルも会場も一年前から予約済みで、いろいろ探し歩きましたがなかなか見つかりませんでした。ある日、仕事でポスター製版の注文を受け、その原稿の中に書かれてある小さな文字が目にとまりました。「静岡交通ビル四階ホール」と書いてあり、一瞬、「これだ」と思い早速電話したところ五月四日はあいているとのことと予約しました。このポスターも私の手元にあつたのは二十分ほどで、実にこれは私に会場を教えてくれるために私のところへ来てくれたとしか考えられませんでした。ホテルも会場も駅から一番便利なところに予約できたことは、とても幸運でした。これで大会が確実に開催できるとホッとしたのを覚えています。

大会当日は、映写をお願いしてありました浜村氏も遠路を愛車で駆けつけて下さりました。準備をする皆さんの顔は、嬉しくてしょうがないとでもいいでしょうが、口元はほほえみ、目は輝き、足ど

りも軽く、人間の一番美しい姿を見させていたように思いました。皆さんを見てると私の方も自然とほほえんできて、何ともいえない充実感が内部からこみあげてきました。すべての準備が完了し、会長も静岡には二年振り、とても元氣な姿で所定の席につかれ、小島氏の司会により待ちに待った静岡支部大会が開催されました。

私の挨拶のあと、お目当ての久保田会長「アダムスキー問題について」と題する大講演です。会長は「昨年欠席したのでその分も合わせて、今日は二年分お話ししましょう」といわれたとおりの最初からものすごい迫力で、参加者全員一言も聞きもらすまいと真剣に聞き入っていました。この会場だけは外のゴールデンウィークの慌ただしさとはまったく関係なく、別世界そのもので最高に高揚したフィードバックに包まれていました。感動の講演が終わり、続いて会員の富士市のプロ写真家筒井氏担当による全員記念写真撮影が行われました。次は「アメリカ南米宇宙考古学の旅」の映画で、浜村氏が実にスムーズに操作され、南米のペルー、ポリビアの雄大な光景など迫力ある画面が次々に展開しました。そして全員自己紹介、質疑応答と進み活発な質問が出され、会長もこれらに丁寧に答えられました。このようにして大会はすべて予定通り終了し、最後に参加者全員が久保田会長に感謝の意を表して、大きな拍手をいつまでもいつまでも送り続けました。久保田先生、ありがとう！

大会終了後は希望者による夕食会が、



会場近くの東海軒会館で、そして二次会と大会同様なごやかなムードで、みなさんは友情と親睦を大いに深めました。

今回は私の挨拶の中で少し時間をお借りし、「GAP(知らせる運動)の底辺拡大のため、若い人にもっとアダムスキー問題を知っていただく」と、「宇宙からの訪問者」をお世話になつてきた母校の図書室に贈り、学生さんに読んでもらい若い芽を発掘しよう」とみなさんに提唱しました。後日何名かの方々から「知らせる運動は手短かで、すぐ実行できることから始めることが大切だ」とご賛同いただき、とても心強く思います。

私も五月九日に中学の母校と学区の中学に寄贈してきました。これからもみなさまのご協力によりまして、GAPの底辺の拡大を計ってゆきたいと思つてます。

最後になりましたが、今回の支部大会で感動の大講演をして下さった久保田会長をはじめ、全国各地からご参加下さったみなさま、そしていろいろお手伝い頂いたみなさま、種々の都合で参加できなかった方々の友情の想念、またホテル、会場、その他お世話になつたすべての方々に心から感謝申し上げます。(野口敏治記)

大阪支部大会

●五月十七日(日)午後一時―五時
●大阪府立労働センター 視聴覚室
●参加者 約七十名

大会前日の十六日夕刻、久保田先生と山口緑氏を迎え、新大阪より宿泊先の京阪ホテルへ直行。チェックインを済ませて頂いた後、歓迎夕食会会場「あじビル北店」へ出向きました。すでに来阪されていた松山支部代表の伊藤達夫氏をまじえ、十名ほどでひとときり歓談した後、近くの喫茶店へ場所を移し、久保田先生に東京での月例会の様子や近況をお伺いし、楽しい前夜となりました。

大会当日はあいにくの雨模様でしたが、静岡の野口氏、名古屋の林氏、福岡の静岡の野口氏、名古屋の林氏、福岡からはじめ、遠くは神奈川、福岡からもご出席を頂き、参加者の三分の一が京阪神以外の方で占められ、GAP活動に対する会員の皆さんの全国的な共通の基盤を築こうとする熱意の表れであることを、あらためて再認識し、心から感謝の意を表明する次第です。

今回の大会では久保田先生のご講演の後に、日頃久保田先生に接する機会の少ない地元の方々のために、質疑応答と意見表明の時間を十分に設け、常々疑問に思っておることについて質問したりし、活発に質問や意見が出されました。

大会終了後は賑波にある「ミューン」において、四十名の参加者による立食パーティーが開かれ、大阪支部の特色を遺憾なく発揮し、さすが食道楽大阪の名に恥じない宴が繰り広げられました。料理も値段の割には多過ぎる位で、最後には袋詰めにして持ち帰るほどでした。この

ころから大阪支部会員の、ものおじしいバイタリティーを賞讃する声が開かれ始めましたが、それもそのはず、まるで漫才感星から転生してきたような会員がいるのですから。大会会場での記念撮影に続いて、ここでも久保田先生の「セーラー」の合図で写真撮影をし、デイスコダンスに興じながら楽しいひとときをすごしました。

パーティー終了後も激しい雨あしが続いていましたが、道頓堀通りのとある居

酒屋で引続き歓談の華を咲かせ、十時半を過ぎても久保田先生を取り巻く人の輪は減らず、大会の後の素晴らしいフィリリングをいつまでも持ち続けたいと願っていました。

今年は大阪に近い神戸のポートピアアイランドで博覧会が開かれていることもあって、大阪市内のホテルはいずれも予約客で満員の状態で、遠方からお越し頂いた方々にはご不便をおかけしました。神戸ポートピア会場の方は、どのパビリ

オンも数時間も待たなければ入場できないとあっては、せつかく大会翌日に予定していた会場見学計画を変更せざるを得ませんでした。急きよ予定を変更して大阪城を見学することになり、福岡の島村謙一氏、松山の伊藤氏を含む十名ほどが同行しました。

大阪城の一部が家康によって修復されたかどうかで最近盛んに議論されていますが、どのように手が加えられたにしても、城郭の根幹は変えることはできません。関西に住みながら大阪城を見たことがない私にはただただ巨大な石垣の威容に圧倒されるばかりでしたが、久保田先生はこの時代の歴史や書にも通じておられるとみえて、秀吉やねね、淀君の番間類を盛んに批評しておられました。大阪城の天守閣は戦乱で焼け落ち、現在はやや縮小されたコンクリート製の複製ですが、それでもこれを背景に記念撮影する修学旅行の学生集団が跡を絶ちません。

いよいよ残り時間も少なくなってきたので、「お好み焼」で腹ごしらえをしたあと新大阪駅へと向かいました。

今回の支部大会にあたり、連日深夜までさまざまなお話をお聞かせ頂いた久保田先生をはじめ、同行の山口緑氏、遠方からわざわざご出席頂いた会員の皆さん、激励の電報をお寄せ頂いた全国の支部の方々、会場のお世話を頂いた役員のご支援に心からお礼を申し上げます。

(山田宏三郎記)



第2回 仙台・山形合同支部大会

●五月二十四日 午前十時～午後五時
 ●仙台市民会館 第三会議室
 ●参加者 五十六名

五月二十三日、久保田会長が来仙されるその日は久々に仙台地方も晴れ上がり、前日までの涼しさは陽光に消されていった。午後四時過ぎ、定刻に特急ひばり11号は到着した。満面笑みを浮かべた久保田会長が、山口緑氏と共にホームへ下りた。そして旭川支部の石川公一氏等、北海道からいらした方々と挨拶を交わし、宿泊先のホテル・サンルート仙台へ向かう。この日は会長と数名の役員が打ち合わせ会程度の予定であったが、仙台ではどうもそれでは済まされぬ。駅前の和風料理店で前夜祭という運びになった。

五月二十四日、薄曇り。曇くもなく寒くもなく過ごし易い天候である。実は天気予報では二十三日から数日天気が崩れるということだったが、久保田会長が滞在された二十三日から二十五日までの三日間、雨降りにならなかつたどころか、二十五日のドライブの日には不思議なことさえ起こつたのだ。

午前九時過ぎに会場の仙台市民会館に到着すると、会議室には十名近くの方々が早々とみえていた。参加通知では約五十名の出席申し込みがあった。山口氏製作の見事な横幕も張り終わり、演壇には美しい花も飾られた。九時五十分、久保田会長が到着。マイク、スピーカーの調整も完了。会場にはなつかしい顔、初対面の方、皆受付を済ませ開会を待つておられる。

今回の大会の特色は、仙台、山形両支部から四名の方々が三十分ずつ講演を行うことである。私と清水氏の挨拶の後、最初の講演者、仙台支部の安藤澄雄氏が演壇に立った。安藤氏は他の三人の講演者をユーモラスに紹介してくれた。後半は楽しい想念の重要性を強調された。次は講演者の中の紅一点、山形の柴田文子さん。その美しさもさることながら、力強い信念を生活のあらゆる面で応用しよう、という講演は聴く人々の心を高揚させずにはおかなかつた。十分の休憩の後、山形支部代表の清水正氏の講演。清水氏は温厚誠実の人であるが一面情熱家でもあり、会場の高まつた雰囲気にも非常に感動された様子で、聴く者にもそれがひしひしと伝わってきた。最後は前山形支部代表、現在は久保田会長を手伝いながら某試験突破のため猛勉強中という山口緑氏。花々が山口氏のテレビ番組に



今回の大会の特色は、仙台、山形両支部から四名の方々が三十分ずつ講演を行うことである。私と清水氏の挨拶の後、最初の講演者、仙台支部の安藤澄雄氏が演壇に立った。安藤氏は他の三人の講演者をユーモラスに紹介してくれた。後半は楽しい想念の重要性を強調された。次は講演者の中の紅一点、山形の柴田文子さん。その美しさもさることながら、力強い信念を生活のあらゆる面で応用しよう、という講演は聴く人々の心を高揚させずにはおかなかつた。十分の休憩の後、山形支部代表の清水正氏の講演。清水氏は温厚誠実の人であるが一面情熱家でもあり、会場の高まつた雰囲気にも非常に感動された様子で、聴く者にもそれがひしひしと伝わってきた。最後は前山形支部代表、現在は久保田会長を手伝いながら某試験突破のため猛勉強中という山口緑氏。花々が山口氏のテレビ番組に

応答し、揺れ動いたという興味深い体験談を披露。また久保田会長の人柄を、大きくで大変若々しいと評し、「時には若い私がタジタジになるようなことも言われる」などとユーモアたっぷり話された。非常に盛り上がった雰囲気の中で午前の部を終了した。

昼休み中、ちよつとしたハブニングが起こつた。久保田会長の体調が思わしくないのだ。考えてみれば会長は超ハードなスケジュールをこなしておられる。若い人でも背くなるような日程である。疲れがたまったものと思われる。会館の休憩室にて四十分程休まれて回復された。この驚異的回復もミラクルワードによる強烈な信念によるものだらうらしい。

会長は会議室に戻られ、約五十分遅れて「アダムスキー問題について」と題する力強い講演を展開された。特に少年、青年時代の変つた体験談などは初耳で

あつたし、ミラクルワードで慢性気管支炎を治された話など興味深い話ばかりである。会長の力強い講演に大会は最高の雰囲気になり、記念撮影、自己紹介、質疑応答とプログラムは進み、盛況裡に閉会となつた。

大会終了後は「精養軒」にて記念夕食会を開催し、素晴らしい愉快なパーティーとなつた。

翌二十五日は希望者による県民の森へのドライブ。何と出発の頃から降り出した雨が、森へ到着した頃上がり、我々が山歩きする頃には背空が広がり始めたのである。久保田会長はこの日夕方の特急で無事帰京された。

過密な日程の中來仙頂いた久保田会長、全国から御出席頂いた皆様、奉仕的にお手伝い頂いた役員の皆様、心から感謝の意を表する次第である。

(笠原弘可記)

札幌・旭川合同支部大会

●六月七日(日) 午前十時～午後四時
●札幌市 石狩会館
●参加者 三十九名

六月七日、赤レンガの建物で有名な北海道庁の北側にある石狩会館で、第一回札幌・旭川合同支部大会が開かれました。前夜、札幌、旭川支部の会員と先に来札した仙台の笠原氏、山形の清水氏らとともに、千歳空港で久保田会長一行を出迎え、札幌入りしました。

前日の不順な天候とは打って変わって翌日は晴れ間の出る良い天気になりました。出席者の出足も順調で、三〇名位の参加者を見込んでいたのが、道内はもとより東京、青森、仙台、群馬、神戸、愛媛と日本各地から四十名近い熱心な会員諸氏が参加され、とても盛大な大会となりました。



午前十時に石川公一氏の司会により大会が開始され、伊藤重信氏と久保田会長の挨拶の後、GAP海外研修旅行の傑作映画である「アメリカ南米宇宙考古学の旅」が上映されました。この素晴らしい映画も今回が最後になるとのことです。会員の方々も更に感銘を深めていたようです。昼食をはさみ午後一時三十分から、久保田会長の「アダムスキー問題の真髄」と題する講演が行われ、この中で、会長自身の興味深い体験談や二千年前、宇宙的な生き方を実践していたグループの知られざる活動、そして自己のイメージを表現させるミラクルワードなど、重要かつ深遠な話をされ、会場を高次の波動で包みました。

恒例の記念撮影では大型カメラをセツトして石狩会館の従業員の人にシャッターを押ししてもらいましたが、その直後素晴らしいフィーリングが起きました。それから旭川の川上富士絵さんより北海道の花スズランが久保田会長に贈られたり、質疑応答に入りましたが、前の講演のためかミラクルワードに関する質問が多く、やはり会員の関心事になっていると思われました。最後に自己紹介をして、大会は盛況のうちに終了しました。

夕食は会場近くの郷土料理店「菅御殿」で行われ、一同が席を囲み、飲んで食べて話し合い、互いに交流を深めていきました。また、帯広の大橋さんより名物の十勝ワインが提供され、久保田会長はじめ多くの人に好評を博しました。宴もたけなわのころ久保田会長のGAP応援歌が飛び出し、旭川支部の石川公一氏が音楽活動によりGAP精神を伝えていくことを紹介、盛大な拍手が送られました。夜の札幌もまだ宵のうちで、スキニに繰り出しての二次会は居酒屋で行われ、北海道の味と各支部のど自慢大会になり、きわめつけは石川氏の歌で、やんやの喝采を受けていました。この後、三次会に流れる人もいて多忙な(?)一日でした。

六月としてはやや肌寒い印象を与えた翌日は札幌市内観光で、車五台に便乗した一行は、まず郊外の羊ヶ丘展望台へ向い、その雄大な自然を満喫しました。それから冬期オリンピックで使用された競技施設を見学して、一路、札幌市民の山である藻岩山(標高五三二メートル)に行き、札幌市を含む石狩平野を展望しましたが、想念が浄化されるようでした。短時間でしたが、自然に触れることの出来た有意義な観光となりました。

今大会も無事に終えることができ、準備をさせていただいた役員はじめ、遠方よりかけつけてくださった会員諸氏、祝電を送っていただいた静岡、大阪両支部の皆様、そして宇宙的なフィーリングをもつて北海道のGAP活動に大きな励ましと刺激を与えてくれた久保田会長にこの場をかりまして深く感謝いたします。どうもありがとうございました。

(伊藤・石川記)

名古屋支部決起大会

●六月十四日 午後一時～四時半
 ●名古屋市民会館 特別会議室
 ●参加者 二十五名

六月十四日、久保田先生と山口氏をご招待し、名古屋支部決起大会を開催して輝かしい第一歩を踏み出すことになりました。

受け付け開始の午後からは、会議室へ熱心な会員の方々が集まってこられ、配布された支部報を読まれながら開会を待たれていました。

林氏の巧みな司会に導かれて、私の挨拶に続き久保田先生のご講演には非常な熱がこもり、参加された皆様も真剣に聴き入っておられました。会場はひとつの宇宙的なフィリングで満たされんばかりで、会長の講演は「アダムスキーの原点に迫ろう」ということに始まり、「宿命・直感力・信念の根本要素が重要である」と力説されました。さらにポール・シフトに起因する現在の情勢について触れられ、「一瞬一瞬が大切である」と強調されておられました。

その後記念撮影、山口氏の挨拶に続き、科学的立場からアダムスキー哲学の正しさを立証した斎藤泰文氏の講演。氏はピラミッドパワーを生命科学に結びつけ、宇宙の深淵とアダムスキー哲学の真実性を強調され、参加者に大いなる感銘を与えられました。そして短時間にも活発な質疑応答が繰り広げられ、大会は大盛況のもとに無事終了いたしました。

引き続き市内の喫茶室の二階を借り切った夕食パーティが立食形式で開催され、笑顔あふれんばかりの雰囲気の中、久保



田先生に質問される方々、久しぶりの再会に親交を深められる方々、思い思いに楽しみ、とても愉快な一夜が展開しました。

翌日は有志の方々十名ばかりで名古屋市内めぐりを楽しみ、名古屋城や熱田神宮を散策し、とても有意義な一日となりました。

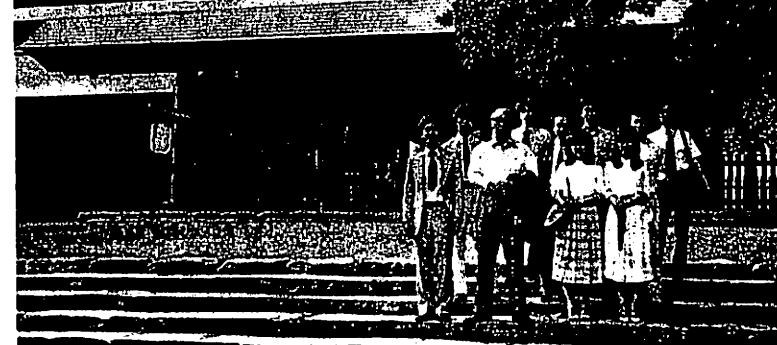
久保田先生は過労が重なっておられると聞いており、とても複雑な気持ちでし



たが、すこぶるお元気で、見事ミラクルワードを応用されておられるご様子で信じられない程元気であられました。

未熟ではありましたが、今大会は私にとりまして大変貴重なレッスンでした。この貴重な経験を生かし、今後の名古屋支部を一層発展させるよう、がんばるつもりです。また先生は名古屋が初めてということでしたが、美しい都市ですし、今後とも交流を深めて頂ければ素晴らしい

ことと思います。



突然にもかかわらず、今大会にご出席を快くご了承下さいました久保田先生のご支援に厚く御礼を申し上げますとともに、山口氏の数々のご親切、遠路はるばる応援に駆けつけて下さいました方々、献身的にご協力下さいました皆様に心よりお礼を申し上げます。

(武田充弘記)

●支部大会余録●

三月二十二日の松山支部大会から始まって六月十四日の名古屋支部決起大会で一息ついた日本GAP上半期の地方支部大会はかかなり集中的に続いたけれど、いずれも大成功裡に終了して慶賀にたえぬ次第である。編者としてもかつてないほどに充実した四カ月間をすごし、生命感の満ち溢れた歡喜と躍動の日々を送ることができた。

いずれの支部も真剣さで行き届いた配慮においては甲乙つけがたくて比較することはむずかしい。どの支部の大会運営も立派であり、雰囲気はきわめて高次であった。編者も常に全力投球でのぞみ、最善を尽くしたつもりだが、特に講演内容については極力慎重を期して同じ話のオーム返しにならぬように原稿に万全の手入れをした。このトシになると忘れっぽくなるし用心深くもなるのか原稿なしに一時間以上もしゃべることは到底できない。

各支部大会への出張にはいつも山口君が同行して編者の重い荷物をかついでくれたので大助かりした。実際、四月以来の同君の大活躍には感謝の言葉を知らないほどである。同君がいなかったらGAP活動はひどく停滞したかもしれない。百の論説よりも実行の尊さを痛感するこの頃である。また人間の能力の問題についても深く考えさせられる。GAP活動には高度な知性と不屈の信念が要求されるので優秀な助手が必要なのだ。

どの支部も大会の翌日は名所見学等に案内して下さって心温まる歓迎にあずかり恐縮し衷心より感謝した。松山市では松山城へ二度目の見学に行った。広い市街地の中に山がポツンとあるのも珍しいが、この天然の要衝を利用した城は意外と大規模で、慶長年間の鞆門が残存し、天守閣と櫓は安政一年の再建で国宝である。この美しい連立式城郭をあとにして午後、一行十三名は松山市から伊予北条市へドライブし、沖合に浮かぶ鹿島へ船で渡った。信じられぬほどに水が澄みきって魚が沢山見える。太田屋のタイ飯は珍味だった。

五月四日の静岡支部大会の翌日は四名で清水市の東海大学海洋科学博物館を見学、世界一の魚水槽を見て驚嘆する。しかも数千匹もいる魚が全く体をぶっつけ合うこともなく巧みに相手をかわしながら遊泳しケンカをしない平和共存状態をながめて「人間より利口ではないか」などと語り合ったが、これはよいレックスンになった。そのあと日本平へ行く。

同月十七日の大阪支部大会はあいにくの雨にたたられたが、翌十八日は薄日のさす絶好の好案日和となり、神戸のポートピアは人出が多くて混雑するとの情報を得て、急遽大阪城見学に変更、十一名で城へ登った。明治初年に失火で焼失した本丸の跡に一九三一年、黒田家伝大阪の陣屏風に描かれた絵をもとにして鉄筋コンクリートで再建された天守閣は、一五八三年（天正十一年）秀吉が修築した当時の姿を伝えているようだが、現存する巨大な石垣や天守台は徳川氏の築工に

よるらしい。むかし一度来たことはあるのだが、ほとんど忘れていたので何もかもが珍しい。城内は美術館になっており、国宝級の書画が充満しているのに一瞥を喫したが、特に秀吉の豪快な筆跡の書簡と千姫の達筆が印象に残った。濠洲を遺還すると冬夏両度の大阪の陣で奮戦した兵どもの大喚声が響いてくるような錯覚におそわれる。しかし権力欲の亡者たちの夢の跡というにはあまりにも周辺が近代化されているので戸惑う。大阪は東京よりも綺麗な町だ。

二十四日の仙台・山形支部大会では大失敗をやらかした。体調が悪くて講演の開始時間を大幅に遅らせてしまい、皆さん方に大迷惑をかけたしまった。しかし休養中に猛烈にミラクルワードをとえたら不思議にも急速によくなった。

翌日は十九名で泉市の県民の森へ行き、新緑の萌え出づる山林中を散策し、東京では味わえない静かな空気を胸一杯吸い込む。前夜のディナーパーティーのあと二次会で繰り出したピヤホールで我々のために特別出演してくれたフリップン入楽団のメキシコ民謡が素晴らしいものとなった。

六月七日の札幌・旭川合同支部大会には非常な期待を寄せていたが、これははげなかつた。大会もさることながら初めて見る札幌の町はエキゾティシズムに満ちており、これが日本の都市かと臆目した。民家のスタイルがたいへんモダンでアメリカへ来たような気分になる。ただし戸外はざいぶん寒くて、夏姿の編者はしばしば震えた。札幌でもいまだときこ

んな低温は珍しいという。二十一名で登った藻岩山から眺める百万都市は赤と青の屋根で埋まって美しい。市街も整然としたゾバン目で区画されてサンフランシスコを思わせる。むかし都市計画の際にオランダの都市作りを参考にしたという傳説は山形の清水君らと函館へ出たあと単独で五稜郭を見学した。幕末史に深い関心を持つ編者は根本武揚と官軍参謀の黒田清隆の対決における黒田の武士道精神に感銘を新たにす。念願だった石川啄木の史跡を訪えば高鳴る胸を抑えきれない。天遊したこの薄曇りの大詩人の銅像が海岸の小公園に建立されており、台石の正面には「かの浜藪翁よ今年も咲けるや」の歌が刻まれている。立待岬付近の石川家の墓には「東海の小島の磯の」の自筆原稿が刻み込まれている。啄木がよく付んだという岬の台地を低視すれば、冷たい潮風も彼の浪漫的な名歌を高らかに吟誦するかのようになり渡る。函館もエキゾティックな美しい港町だ。

六月十四日に名古屋を訪れて、終戦直後軍隊から復員する途中見た焼野原に壮大な都市計画が完成しているのに驚いたが、残念ながら紙数が尽きた。お世話になった各支部代表や有志の方々に深甚の謝意を表する次第である。そして人間の善意と友情こそが目標に到達するための最強力な武器であることをあらためて痛感したのであった。

招待を受けたらどこへでも飛んで行って気軽に話したというアダムスキーのきさくな態度を模範として今後も大奮闘を続けたい。(久保田八郎記)

盛況! GAP出版記念会

●七月四日(土) 午後六時半〜九時

●健保会館 地下一階大ホール

●参加者 五十六名

ジョージ・アダムスキーの不朽の名著「宇宙からの訪問者」の豪華限定保存版と久保田会長の傑作、驚異ノンフィクション・ミステリー「アつの謎と奇跡」の華々しい出版を祝し、盛大なる出版記念パーティーがGAP会員有志主催により開催された。



東京月例会を五時二十五分に終了し、記念会のメイン・キャクター渡辺護氏に導かれ、会場である健保会館に到着。

有志役員によりすでに準備万端整えられ、安藤澄雄氏製作の入場券によってスムーズに受付が進行する。会場の舞台上には見事な横断幕が掲げられ、その中にはアダムスキー氏の荘厳なる肖像写真も飾られ、まぶしく輝く。この見事な看板は群馬の会員・プロ看板技士、久保寺申一氏により贈呈されたものである。また会場には二点の迫力溢れるアダムスキー氏撮影の円盤写真と先の二点の書籍が展示され、会場は宇宙的フーリングで充満し、一同は開会を待たれる。

六時四十五分、條芳史氏の堂にいった名司会に導かれ、いよいよプログラムが展開し始めた。有志代表として挨拶に立たれた野口氏の「この出版記念会を機にアダムスキー哲学の生きた実践を通し、さらに広範囲に伝えてゆこう」という力強い挨拶に続き、久保田会長の「記念会開催を心から喜び、ますますGAP活動を推進してゆきたい」という堂々たる挨拶を頂いた。続いて今回この二冊の出版に携われご尽力を頂いたユニバース出版社の矢沢編集長と内野氏、主婦の友社の山田書籍販売課長、関口第三出版部長、岩崎氏、文芸春秋の原営業次長の各氏が紹介され、次に来賓代表として関口氏の

心のこもった挨拶を頂く。さらに久保田会長への花束贈呈。白銀色の美しいドレスに身をくるんだ大山ひろみさんの手から手渡され、観キスもプレゼントされ、会長は上気嫌、会場は拍手の渦に沸き上がる。会長所有の名機ホースマン大判カメラ

による記念撮影は宮城の安藤氏が担当。いよいよ乾杯である。野口氏の音頭で、「カンパニー」の唱和直後、会場全体に軽快なメキシコの音楽が響き渡った。三つのテーブルにはたくさんのおいしいご馳走が山積みで、皆自由に食べ、飲みながらひとときり歓談の花が咲く。出版社の方々との親しい会話を交えながら、二点の書籍出版を祝福し合う。来賓の中

のおひとりの方は「GAPには何と若い方が多いのだろう。素晴らしい。自分もGAP会員になりたい」と嬉しいご意見。宴もたけなわ、いよいよ演じ物が登場する。会員の森嶋恒吉氏とそのお弟子さんのリサ嬢による「心身統一合気道」の興味深い演武披露。五段の腕前の森嶋氏は広くその演技を各方面に伝え、指導しておられるその道の師範であられる。宇宙のエネルギをそのまま技に応用し、空飛ぶ円盤の推進原理と同一の原理を用いるという。人間の内部に宇宙の中心があるという確信とともに参加者に大きな

パワーを与えてくれるほどの、すばらしく、珍しい演技であった。弟子のリサさんはアメリカ人の美しい女性で、この武道を学ぶために来日されておられる、信念の強い女性である。続いて愉快な福引。十等のうちワから

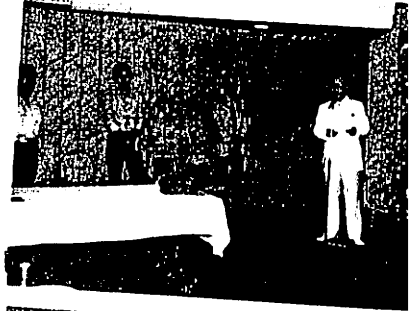
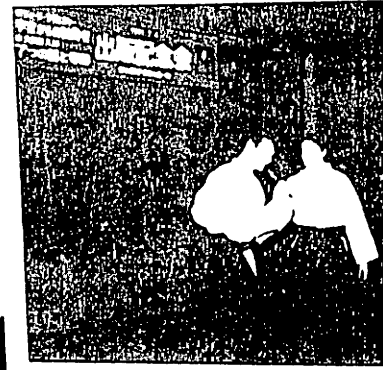
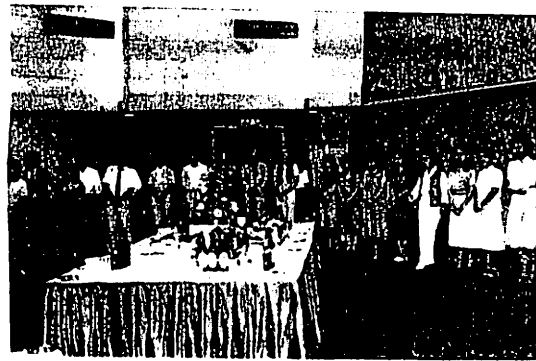
一等の天体望遠鏡まで、豪華品品でいっぱいである。当選番号が発表されることに、久保田会長よりユーモアあふれたメッセージとともに手渡され、またまた拍手の渦。見事幸運の天体望遠鏡を手にしたのは菅原恵子さんであった。

この日は偶然にも久保田会長の記念すべき誕生日であることが司会者によって発表され、再び大山さんの手からプレゼントが渡され、会長の顔は微笑でいっぱい。皆さんも限らない祝福をおくられ、なごやかな雰囲気の中に、無事大盛況とともに幕を閉じ、幸福と祝福がいつまでも各人の心に燃え続けていた。

その後も二次会、三次会へと進み、大いに楽しい一夜を過ごしたのである。

今回の出版記念会のためにわざわざ足を運ばれた北海道、東北、関西方面の熱心な方々をはじめとする全参加者と、ご多忙ながらご出席頂いた出版社の方々、そして二十一年間に渡り、私たちにGAP活動を啓蒙推進され、多大な偉業を成してこられた久保田先生、この記念会のためにご尽力頂いた役員の方々、貴重なるご寄付を頂いた方々、すばらしい演武をプレゼントして下さいました森嶋氏とリサさん、横断幕をおつくり頂いた久保寺氏、その他の方々に衷心より感謝の意を表する次第である。(山口 緑記)

全く素晴らしい記念パーティーを開催して頂いた今生最高の佳日となり、感謝にたえぬ次第である。ご尽力下さった役員の方々に参加者全員の方々のご芳名は生涯私の胸から消え去ることはない。(久保田八郎記)



おぼろげな空飛ぶ円盤

『地球の謎』の一回



久保田八郎

久保田八郎の著

この太陽系内の宇宙活動 ● 第2章

私が宇宙に関する講演をするときに最もひんぱんに出される問題の一つは、地球よりも遠い惑星には光と熱が欠けているという科学者たちの主張である。彼らが私に反対する理由は次のとおりだ。つまり、あまり距離が遠すぎると太陽の放射線はきわめて弱くなるので、たとえ冥王星などは完全にゼロかまたはそれに近く、大気は極寒となり、いかなる種類の生命形態も存在することは絶対にできないというのである。

こうした他の惑星から来た人と私が会ったということにたいして疑惑が持たれるときに、以上が私に投げかけられるおもな疑問である。

まず最初に気づかねばならぬのは、太陽は我々が地球上で見ようとなかたちで光と熱を放っているのではないということである。太陽の放射線は惑星の大気圏へ入って来るまでは、それ自体を光や熱としてあらわしてはいない。大気圏外は我々が知っているように光に欠けている。大気圏外の光は、太陽から放たれる放射線にこたえる微粒子とガスの巨大な雲の輝光に起因する冷たい光なのである。人間の目にとって大気圏外宇宙空間は多様な光を帯びた無数の小さな斑点で満たされた暗黒の広大な空間のように見えるが、この小さな光の斑点はすべてたえまのない運動と活動の状態にある。太陽の放射

線は紫外線、透過力の大きい小さいエックス線、宇宙線やガンマ線などで構成されている。これらの破壊的な放射線の大部分は惑星の電離層と大気圏の上層部によって濾過される。惑星の大気中の無数の微粒子はその濾過された太陽の放射線によって刺激されると可視光線を放射するのである。大地はこれらの放射線を吸収し、かわりに赤外線を放射する。こうして放たれるエネルギーが惑星を直接取り巻いている大気を活性化し、それによって熱が生じ、これが惑星を暖かく保つのである。

太陽から出るこのエネルギーがどのようにして地球を取り巻くことができるかを知るのには容易である。要するに我々は太陽から九千三百万マイルしか離れていないのだが、そうすると太陽からもっと遠方にある惑星はどうだろう。

標準的な教科書によれば、太陽の放射線は距離の自乗に反比例して弱まってゆくという。素人の言葉で言えば、これはもし太陽からの距離が二倍になれば放射線の強さがわずか四分の一に減ってしまうことを意味する。更にその距離を二倍にすると放射線の強さは十六分の一になってしまう。もし太陽の放射線が実際にこの割合で弱まってゆくとすれば、外惑星群はたしかに永久に極寒の状態にあるだろう。

それでは真相はどうか？ 私は個人的な体験からしてこれらの外惑星群にも我々の地球に似た気候や大気があって文明が栄えていることを知っている。土星や木星のような大きな惑星は、これまで地球の科学者によって推定されていた引力よりもはるかに弱い引力を持つているのである。したがって地球人の引力の説明はある点で間違っているかもしれない。

さて、このおもな問題は引力ではなくて気候に関することである。地球に似た状態で存在するためには、これらの惑星群はどのようにして太陽のエネルギーを充分に受けるのであろうか？

カギはテレビ受像機にある

この解答の手がかりは真空管の中に見い出される。もつと正確に言うと、それはブラウン管の中にある。CRTと略されているこの管は普通の家庭用テレビ受像機の中に見られる。この管の中にはヒーターがあつて、これがカソード（陰極）の温度を上げて莫大な量の電子を放つ。この電子は性質が陰である。陽の高電圧が管の中の種々のグリッドやアノード、（陽極）に供給される。

電気には陽と陰の二種類がある。電子は陰であり、その片割れである陽子は陽である。磁石の北極が他の磁石の南極を引き寄せるように、電子は陽子を引き寄せる。磁石の同じ極同士は互いに反発するが、電気でも同じ電荷はやはり反発する。同類は相反発し、異種は互いに引き寄せ合うのである。

ブラウン管のグリッドとアノード（陽極）の陽の高電圧はカソード（陰極）から出る電子を引き寄せる。すると電子は高速度でアノード（陽極）の方へ引っぱられるが、しかしこのアノード（陽極）のある構造のために、ほとんどの電子はこれを通り抜けて次のアノード（陽極）の方へ直進する。理論上では、これは種々の異なるアノード（陽極）と陽の高電圧を用いることによって非常な遠距離にまでおよぼすことができるはずである。

アステロイド帯はアノードの役目をする

水星、金星、地球および火星は充分な放射線を受けるほどに太陽に近いけれども、火星から遠方の惑星群になると状況は違ってくる。このような距離では太陽の放射線も弱まり始めているからだ。しかしこのときその放射線は、太陽系の中心部を完全に取り巻いている第一アステロイド帯によって発生したすさまじい吸引力の影響下に入ってくる。そのアステロイド帯の陰電荷は太陽から来る微粒子を引き寄せるほどに強力であつて、しかもその微粒子を加速して元のスピードにもどす。このアステロイド帯は構造上グリッドに似ていて、無数の透き間や通り道を持っており、空気を流通させる窓の金網に似ているので、微粒子はこれを通り抜けて直進し、次の惑星群の影響下に入るのである。

あらゆる惑星がそうであるように、これらの惑星群も本来は陰であるので、光と熱を得るのに必要な陽の微粒子を宇宙

空間から引き寄せる。と同時に無数の同様な微粒子が惑星群を通過して海王星と冥王星のあいだにある第二アステロイド帯に引き寄せられ、ここでも同じ過程がくり返される。このようにして冥王星と最後の三つの惑星群にも普通の光と熱が与えられているのである（異星人から聞いたところによると我々の太陽系には全部で十二個の惑星が存在しているということである）。

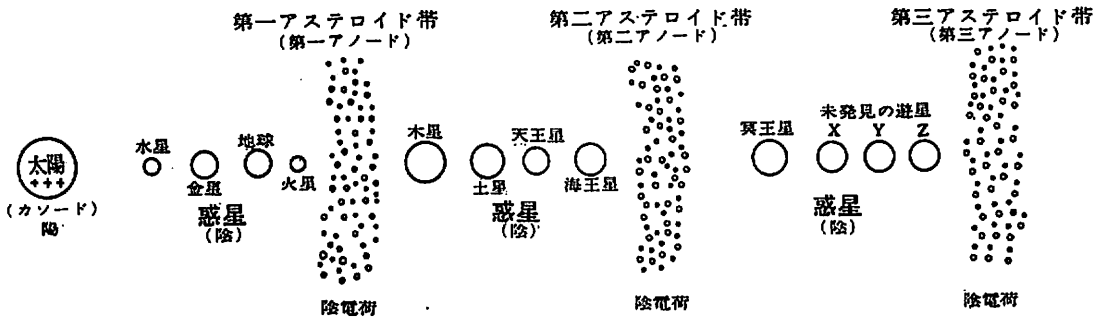
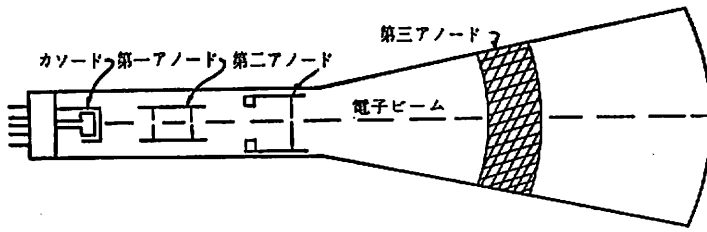
第三のアステロイド帯は十二番目の惑星の外側にあつて、この太陽系内の空間と近隣の太陽系群の空間とを混和させるための二重の目的を果たしている。と同時にはそれは保護フィルターとして役立つのであつて、ちょうど惑星を取り巻いている電離層にたとえることができるのである。

以上を次のように要約することができ。つまり、内側にある二つのアステロイド帯は太陽から来る放射線を集めて、それを加速して空間へ送り出す。いわばこの二つのアステロイド帯は水星のあるあたりから太陽系の最も外側にある範囲内の諸条件を等しくするのであり、第三番目のアステロイド帯は我々の太陽系を他の太陽系群と均衡のとれた状態に保っているのである。地球人がこれまでになつていないなかつたこの宇宙活動のために、我々はこの惑星にも行くことができ、地球によく似た大気や気候を楽しむことができるだろう。

惑星を生み出す子宮

（長さ、速度、幅、電荷などがさまざまに異なる太陽の諸放射線を引き寄せている、基本的にはその性質が陰であるこのアステロイド帯があるために、ある状態が電気の交流に似た活動に変えられる。陽電荷の微粒子のなかにはアステロイド帯の中に捕らえられるものもあるし、これを通り抜けて空間を進行し続けるものもある。吸引と反発の法則のためにアステロイド帯のなかの微粒子同士はあいだに凝集の状態が起こつて、より大きな形態を形作るのであるが、一方、大部分はその自然の状態を保っている。このようにして作り出された種々の大きさの各粒子は、等しくエネルギーと物質の両方で絶えず互いに働きかけるようにさせられる。この活動そのものが、ある物質を作り上げたり、また、組み立てられている微粒子を分離させることによって他の物質を分解させたりするのである。

このようにして自然界の誘電体として役立っているこのアステロイド帯は、惑星を生み出す宇宙の子宮であると私は聞かされている。太陽系内の一惑星が存在期間の絶頂に達して衰微と崩壊の過程に入り始めると、その惑星の軌道の磁気的な作用によってアステロイド帯から一つの物質が引き寄せられて太陽系の完全なバランスを保つ。そこで、その古い惑星が崩壊するにつれて、新しい惑星がそれにかわつて作られるのである。もつと大きな規模になると、太陽系そのものも生成、生長、消滅の同じ周期をくり返し、大自然界の万物がやるようなパタンに従うのである。



ブラウン管と太陽系との比較図

ここで「消滅」という言葉を私が用いたのは、物質がガス状の目に見えない状態に返ってゆくことを意味する。つまりそれはなくなってしまうのではなく、ただ形が変わるだけなのだ。このよい例としては氷が水になり、ついに蒸気となって蒸発する場合に見られる。

物質が元のガス状に戻った後、それはふたたび例の周期にすすんで入ろうとする。それは惑星間の距離をさまよって別な惑星の一部分になるかもしれないし、あるいは元の惑星に帰ってその一部分になるかもしれない。こうして新しい物体の形成に役立つのである。

惑星間のこのたえまない交換からみると、各惑星がその構造において同じような物質を持ち、その表面に同じような植物や動物を持つているのは当然のことにすぎない。ただし少数の例外はあるけれども。

我々の銀河系と同じ巨大な無数の銀河系が無数の宇宙の広大な領域内に存在していることが知られている。望遠鏡ではるか彼方を観測すると、これらの大銀河系の中心に近く、新しい熱い星々が望見される。銀河系が膨張するにつれて、この星々は冷えて惑星系が生み出されるのである。

こうした星々のより冷たい端には生命を維持できる無数の惑星が存在している。ここにもまた数千光年以上の距離にわたって広がっている酸素と水素の広大な雲がある。これは最近パロマー山の二百インチ望遠鏡で撮られたカラー写真の検査から容易に判明したことである。新しく

開発されたスーパーカラーフィルムを用いて撮影されたこれらの写真は、観測できるほとんどの銀河系の約六十五パーセントにわたって存在する酸素の大雲と水素の大赤雲を示している。これらのガスが明瞭に現れていない地域だけは銀河系それ自体の熱い中心部の中にあるのである。

我々の太陽系内の太陽は約一千億個の星々から成る星雲のなかの一つにすぎない(訳注：現在、天文学で推定される恒星の総数は約四億個とされている)。

人類の住む数十万の惑星が我々の銀河系の中だけでも存在する可能性は充分にある。

更に無数の太陽やそれに関連した惑星群が初めも終わりもなく無限に存在していることを想像されたい!

人間とその自我は、我々の地球がこの広大な陣列の中心であると主張してきた。我々の惑星が宇宙で唯一のものではないという可能性を考えることを人間は拒んできた。いま人間はいやおうなしに目覚めさせられつつある——一つは近隣の惑星群からの友好的な訪問であって、彼らの宇宙船が大気圏内や世界の各国の上空を飛ぶのが目撃されてきたのだ。もう一つは我々自身の宇宙探検によるのである。

以上の驚異のすべては、我々がほとんど何も知っていない大気圏外へ一歩一歩自己の道を進むにつれて我々を待っているのである。昔信じられていた多くの説は捨てられてしまった。宇宙は我々の前に存在しているので、昔のバイオニアたちにとって新しい島がそうであったように

うに、求める人になりたいしては無限の理解という島が展開しているのである。彼らは地球のバイオニアアであった。いまは我々がたえまなき活動と無限の驚異を秘

第3章 宇宙船と重力

地球人が大気圏外への旅行を計画するとき、昔の船乗りがかかえていた問題と多くの点で比較できる諸問題にある程度直面する。ちょうど海洋に海流があるのと同じように、宇宙にも一定の自然の道があるからである。地球のパイロットたちはある高度を飛びながら我々の惑星の上空に、宇宙の川を発見している。これは偶然につきとめられたのであるが、それ以来航空雑誌などに多数の記事となつて載せられている。科学者や飛行士たちは海洋の海流にたとえられる、大気圏内を動いているさまざまなタイプの気流に気づいている。惑星間や太陽系間など宇宙にもあまねく同じような状態があることがいつかわかるだろう。

他の惑星の住民は自分たちの惑星を取り巻いている大気の中のこのような状態を研究したために、最初の宇宙船を開発して大気圏外へ飛び出ることができたのである。そのとき以来彼らにとって宇宙というものは、ちょうど地球の航空機が地球上をもちこちと飛びまわるのと同じくらいに安全で簡単なものとなつてきた。もし大気圏外に飛び出て安全に帰還しようとするのなら、重い燃料を積み込んで船体に負担をかけるのは無理なことで、

めた宇宙のバイオニアアである。唯一の至上なる創造主の表現である惑星群から惑星群へ——。(第2章終わり)

それよりも推進力として大自然のエネルギーの利用法を学ぶ必要があることに彼らはすぐ気づいた。それでこの線にそつて彼らの科学者は研究し、ついに成功したのである。

楕円磁場は太陽系のバランス

別な惑星の宇宙船の磁気推進力をもつと明確に理解するためには、地球磁気や各惑星や太陽を取り巻いている磁気勢力範囲などをまず考えねばならない。

地球の磁場は池の中へ小石を落とすことによつて起こる一連の丸い波紋(複数)にたとえることができる。この丸い波紋は小石の落とされた中心点から外側へ動いてゆく。そして大きさは広がってゆくが、動くにつれて力は弱まってゆく。

ところで二個の小石を数フィートの間隔をおいて同時に池の中へ落とすと、二通りの丸い波が作られて各中心点から外側へ広がりがながら動いてゆく。すると両方の波の先端が出会う所で、二つの中心点のあいだに伸びる一つの干渉模様を作られる。

この干渉模様は広がった楕円形となり、小石の落とされた二つの中心点とその楕

円の各先端に位置することになる。両方の波の先端は中心点から外側へ進むにつれて力が弱まるけれども、干渉模様は両方の力の一部分を結びつけて第三の力を生み出しており、波が活動し続ける限り、この第三の力は二つの中心点のあいだにいつまでも残るのである。

太陽、各惑星、または衛星から空間に及ぼしている磁場の影響範囲のあいだにも同じ関係が存在する。こうした磁気力の波の先端が他の天体からやつて来るにつれて、それらも一般的な広がる楕円形となる。各惑星または太陽の磁場は空間へ進行するにつれてその強さは弱まるけれども、このようにして磁気力の干渉によつて天体間に生み出された楕円磁場が天体間についていまでも変わらず強さを持った磁場を保っているのである。

一惑星の磁場は電池から遠くへ流れてゆくにつれて次第に弱まる。直流に似ているけれども、二つの惑星によつて生み出される楕円磁場は、遠方まで送ることのできる“交流”にたとえてよいだろう。

太陽から惑星へ、惑星から惑星へ伸びているこれらの交流楕円磁場は、太陽系のバランスを保っている目に見えない鎖である。それは更に太陽系同士を結び、更に銀河系同士をも結んでいるのである。それはまた、超小型太陽系である原子の極微の磁場のあいだにも存在する。

地球に影響を与えている各楕円磁場の長軸の先端の部分は北緯五十八度から南緯五十八度にわたっている。各楕円磁場の軸は磁極の軸にたいして直角をなして

おり、地球の磁気赤道に一致する。

円盤や母船はどのようにして作動するのか

惑星間の“磁気の川”はその流れの方向を絶えず交互に変えており、惑星間に往復の磁気パルスを起こしている。この往復パルスの片道を利用して宇宙船は一方へ進行するのである。たとえば、もし宇宙船が惑星を中心として外向きのパルスだけを利用するならば、それは惑星から離れて進行するが、内側向きのパルスを利用すれば、それは惑星の方へ進行する。またもし宇宙船が磁気力の往復パルスを両方向ともに同時に利用すれば船体は空間に停止することができるのである。

一惑星の重力場の中で宇宙船がどのようにして作動するのかを説明するために、まず我々は地球磁気と惑星の自転との関係に気づく必要がある。

地球では多くの作家が“反重力”について書いており、科学研究の分野でも重力はどうにかして停止させることができるといふ考えが導入されている。しかしこれは効果的な考え方ではない。

現在他の惑星から地球へやつて来る宇宙船群は“プロ・グラヴィティック(重力に従う)”原理に基づいて作動する。つまり自然の力に逆らうことをしないでそれを利用するのである。これらの宇宙船群は静電気力で作動するので船体が地球の磁気力に逆らうのは無益となる。地球の磁気力だけでも数十億ボルトのポテンシャルを帯びているのだ

(以下次号)

2001: a space odyssey

MGM PRESENTS A STANLEY KUBRICK PRODUCTION

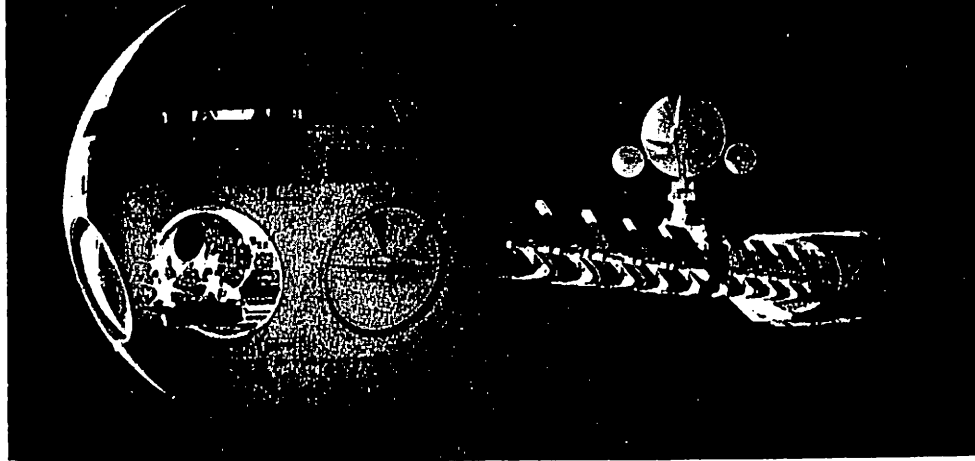
2001年宇宙の旅

MGM映画 ■ CIC配給 ■ 1968年度作品 ■ スーパーバナビジョン ■ メトロカラー

〔文部省特選〕

宇宙ものSF映画として史上空前の超大作とされるこの名画は、何度見ても我々を不可思議さと驚異に満ちた大宇宙空間の彼方へひきずり出したあげく、ついには哲学的な思索の世界におとし込んで沈黙考させるほど雄大なスケールと深遠な概念とで構成されている。「この映

画の主題は「神」という認識内容なのだ。ただしこれまでのような神ではなく、科学的な定義による神なのだ。宇宙の知的存在、生物的進化の最先端としての神である」というスタンリー・キューブリック監督・製作者は完全主義者であり、この映画も破天荒な大仕掛けなものとなっ



ている。

巨大な宇宙ステーションや宇宙船デイスカバリー号内外の驚異的な特撮もさることながら、使用された宇宙服、人工冬眠装置、会話可能なコンピューターその他あらゆる道具類がすべて科学的な本物であり、全巻撮影だけでも二年の歳月を要した。特に宇宙船が木星の大気圏内に突入する際の光景はすさまじいもので夢幻的な驚嘆すべき世界が展開する。

音楽はすべて既成の名曲のみを用い、この抜群の効果も映画の名声を高からしめた。タイトル部分はR・シユトラウス「ツアラトウストラはかく語りき」、謎の黒石碑のテーマはリケッティ「ソプラノ、メゾソプラノ、二つの混声合唱と管絃楽のためのレクイエム」、旅客船オリオン号と宇宙船エアリーズ号の宇宙飛行の場面にJ・シユトラウス「美しく青きドナウ」、木星圏ではリゲッティの「無限の宇宙」の宇宙サウンドという具合で、へたな作曲よりはるかによい。GAP会員必見の名画である。

来たる十月十日(祭日)の日本GAP総会で上映の予定。映写時間二時間三分。

あらすじ

四百万年前、地球はまだサル時代の人間はいない。ある朝サルの群れは原野に立つ不思議な黒石碑を発見して大騒ぎをする。一匹のサルが野獣の骨を攻撃用の道具にすることを思いついて、ここに人間への進化の夜明けが訪れる。(注) 黒石碑は遠い大昔に別な惑星の人間が立

ておいたもの)。

そして紀元二〇〇〇年、いまや地球人は地球と月のあいだに巨大な宇宙ステーションを設置している。米航空宇宙局のフロイド博士が秘密の任務でオリオン号に乗り、ケープケネディー空港から赤道上空千八百キロの高度で地球を回る宇宙ステーション5号に一時間で着き、少憩の後、宇宙船エアリーズ号で月に向かい、ティコ・クレーターで掘り出された黒石碑の調査を行う(注)この黒石碑も四百万年前に別な惑星の人間が月にも来て名刺がわりにこの記念物を残したものだ)。

この黒石碑は木星の方向に強力な電波信号を発射していたので、謎を解くために一年二カ月後、科学者を乗せた原子力宇宙探險船デイスカバリー号が地球から八億キロの木星に向かって飛び立つ。隊長のポウマン博士とブル博士以外の三名の隊員は酸素や食料等を節約するために人工冬眠カプセル中で眠っている。

宇宙船が木星を目指して航行中、船内の超精密コンピューター「HAL9000」は恐ろしい計画をたてて船外のアンテナが不調だから修理せよと言う。そして宇宙艇で本船外に出たブル博士の命綱を切断する。そこでポウマンが宇宙艇であとを追いつき、マジックハンドで僚友をつかまえて本船内に収容しようとするが、コンピューターHALは格納庫の扉を固く閉じてポウマンをも船内に入れようとしない。彼が非常手段を用いて船内に押し入ると冬眠中の三名はすでに死亡している。怒ったポウマンはHALの電子頭脳室へ入り、航行に必要な機能だけを残

考 察

してHALの「思考力」を停止させる。ただ一人生き残ったポウマンは宇宙飛行を続けて、巨大な木星の軌道に入ったとき、木星の数個の衛星の間に大きな黒石碑が浮いているのを発見する。ポウマンが宇宙艇で突進するにつれて、ものすごいスピードで大星団の中を突っ切り、全く異次元の時間と空間の世界に突入する。そこは人間の知識その他が完全に無益となる不思議な世界で、人間の体が耐え得る限界を超えた領域であった。

ポウマンがふとわれに返ったとき、彼はルイ十六世時代の優雅な部屋の中に立っている。不思議なことにその部屋に静かに一人で住んでいる人間は自分自身であることを発見する。この場所はポウマンを黒石碑の謎で引き寄せた宇宙の創造主が彼のために用意した別な惑星なのか、それとも地球なのか、ポウマンにもわからない。

この古風な寒々とした部屋の中でポウマンはみるみるうちに老い果ててゆき、やがてベッドに横たわる彼のそばには生涯を象徴するかのように宇宙艇と黒石碑が立っていた。彼が静かに手を上げてそれらにむかつて最後の挨拶をすると、またも黒石碑の奇跡が生じて、死のベッドで彼は胎児としてよみがえる。それは宇宙の絶対的な創造主の力に出会った経験と知恵とを体内にたくわえて新生した人間が高次のレベルに飛躍しようとする姿である。胎児は地球や宇宙をながめながら、世に出る日を待っていた。

全作品をつらぬくものは壮大な科学精神ばかりではなく深遠な転生とカルマの思想である。これを理解していないと映画を見終わったあと「何のこじやら、さっぱりわからなかつた」という結果になるだろう。キューブリックと共に脚本を共同執筆したアーサー・C・クラークは英国のSFの巨匠だが、彼はアダムスキ一の「宇宙からの訪問者」を読んで、「こんなでたらめな本は宇宙船に積み込んで宇宙空間に捨ててしまおうほうがよい」と酷評したと伝えられているけれども、実際はアダムスキイに魅惑されていたと考えられるフシが多々ある。この映画にしてもアダムスキイの体験記を読んでいるければ思いつかないようなアイデアがふんだんに盛り込まれているのだ。あるいはキューブリックの方がア氏の体験記を参考にしたのかもわからない。

「あの映画は言葉におきかえられないメッセージである。言葉によらない体験なのだ。言葉のワナに落ち込まない視覚的な体験をつくりあげようとした。その感覚的な哲学的な内容が直接意識下にしみとおるような作品にしようとした。あの映画が成功したとすれば、それは人間の運命とか、宇宙における人間の役割などについてあまり考えたことのない人々の層にまでアピールしたことだと思ふ。あの映画の哲学的な意味や象徴的な意味は観客が自由に考えればよい」とキューブリックは言う。

またクラークも語っている。「科学技術が申し分なく進歩すれば、そ

れは魔法と見分けがつかなくなる。また申し分なく進化した生物がいるとすれば彼らは神と見分けがつかないだろう」

宇宙飛行士ポウマンは高度に進化した生物すなわち全能に近い力を持つ神に宇宙の彼方で遭遇したのである。そして彼自身は宇宙飛行という体験により、地球人の次元を超えて、より高度な世界に転生したと考えられるが、映画ではこのあたりをボカして観客の思考にゆだねている。これがなんともいえず深味と哲学的雰囲気をもも出し出しているのである。

一九六八年度の作品だが永久不滅の大傑作と称されるべきだろう。

驚異的大セットと特撮

この映画の製作にあたって美術監督トニー・マスターズは三十五名のデザイナーと製図工を集めて、徹底的に高度な科学水準を土台にしたセットを準備した。宇宙空間から見た地球、巨大な宇宙ステーション、地球と月を往復する宇宙船、惑星間宇宙船などの模型類は十八個の巨大なセットとなり、ピッカース・アームストロング社が用意した重要な道具類は高さ十メートル、重量三十八トンもある。

撮影中は元陸軍弾道ミサイル部のフレドリック・オーグウェイとハリー・レンジ、元航空宇宙局の宇宙飛行センター付科学者ジョージ・マーシャルの三名が付き添って、宇宙場面の真実さを表現するために科学的な助言をした。

圧巻は宇宙船が大星団に突入した際的光線乱舞のシーンである。これはスリッ

トスキャンという特殊な撮影装置を用いてフィルムを「コマ」ずつ撮影したもので、その他多くの場面にも驚くほどの手間と時間がかけられている。特殊効果監督のトラングルは「これと同じ事をもう一度やるのは不可能だ」と語った。

そこで編者も言いたい。

「来年からの日本GAP総会でこの映画を上映することはもう不可能だ」

(久保田記)

— スタッフ —

監督・製作	スタンリー・キューブリック	編集	レイ・ラブジョイ
脚本	スタンリー・キューブリック アーサー・C・クラーク	特殊効果監督	ウォーリー・ピーバース ダグラス・トランブル
撮影監督	ジョフリー・アンズワース		コン・ペダーソン
補助撮影	ジョン・オルコット		トム・ハワード
製作デザイン	トニー・マスターズ ハリー・レンジ アーニー・アーチャー	衣装	ハーディ・エイミーズ
		特殊撮影 効果監督	スタンリー・キューブリック



世の中の役に立つ人間になろう

東京 山本益三

その後お元気ででしょうか。仕事の方も少しずつ馴れてきていますが、毎日十時過ぎまで残業というきびしさ。しかし調音をはきまずまい！私もようやく二十五才と五か月になりましたが、久保田先生は二十年間も永きにわたってGAP活動を続けてこられたのですから、その信念の力には心から頭が下がります。GAPの有志数名で、事業活動を行って、GAPの資金源でもつくれたらと思はしますが、具体化するまでにはほど遠い感じがします。

しかしGAP音楽喫茶「ブルックナー」をやってみたいですねえ。良い音楽を良い音響で、しかも大音響で、という人はたくさんいるでしょうから。それにしてもGAPには音楽を解する人が意外と少ないような気がしてなりません。先日、穴原さんに電話したところ、カザルスの話になって、「カザルスの演奏する無伴奏チェロ組曲は最高です。それはあのレコードがスペイン戦争の時に録音されているからです。だからこそあの演奏には平和に対する熱烈な希求がこめられているのです」と力説しましたら、「無伴奏チェロ組曲はフルニエのテープしか持っていないよ」といいますので、カザルスのレコー

ドを録音して送りましたところ、「カザルスはスバラシイ、これこそチエロです」という返事がきて嬉しくなりました。カザルスとケネディは何か共通するものを感じるのです。アダムスキー哲学とはまた別次元で、私の尊敬する人物です。数年前から感じているのですが、なぜ我々が生きていくのか、ということと根本から考え直さなくてはならないと思うのです。アダムスキー師も述べているように、人間存在の意義を知ることです。(中略)ハスの花は美しいけれどその根はどうもこの中に張っています。我々が美しい花を咲かせるには、まずこのどろ沼のような社会で生きてゆかなくてはいいけません。ですから我々は夢想家になつてはいけません、と感ずることの多い私です。社会というどろ沼にどっぷりとつかりながらも美しい花を咲かせること——むずかしいけれどがんばってゆきたいと思っています。社会に対する活動力のない人がいくら美しく、理想的な音楽を唱えても、それは所詮、空虚空論といふ気がしてなりません。

も世の中の役に立っている人間になってきているのでしょうか？ 元談はともかく、世の中の役に立つような人間になりたいと思います。

意識との一体化が最重要

神戸市 若松幸子

私は大阪支部でお世話になってます若松と申します。今日まで感じて参りました事柄を少しお話ししてみたいと思います。GAPに入会しまして四回程になりますが、最初は何のことかさっぱり分らないままにアダムスキーの本を読んでおりました。そして少しも理解しようとして例会にもでるだけ出席しておりました。地球に生まれて五十数年自分の生きていることに何の疑問もなく、エゴに振り回されて暮らしてきました。それだけにアダムスキーの本が少し分りかかってきまして、あまりに自分の無知だつたことに、何かこれまでの年月を無意味に過ごしてきたという不安におそわれました。そしてもつと早くこの本を知りたかつたと思いました。でも気がついてよかつた、気がついた時点が出発点なのだとも思いました。このアダムスキーの本がこれからの私の指導書なのだと思っております。そして早く宇宙からの声が聞かれるようになりたいと思っております。「テレパシー」の十六ページに書かれておりますように、宇宙からの声はいつでもどこからでも私達に語りかけている。またその声を聞けるようになったら「指導者は不要」とも書いてあります。自分自身で真実の道がわかるなんて素晴らしいことではありませんか。でも宇宙からの深遠な教えは、興味本位、娯楽本位ではとても達成できないと思ひました。もつと真剣に取り組みべきだと思ひました。GAPの会員であればUFOやスペース・プラザ人はいないでしょう。創造主がおつくりになった広大な宇宙の一角として生かされていることも。だから私達は意識との一体化が最も重要な課題ではないかと思ひます。私は最初に読んだニューズレターも、最近送つて頂いた号も内容的には同じとばかりだと感じました。もつと勇氣と愛を持った宇宙からの声を聞かせて下さい。勿論、人それぞれの勉強ですから、すでに達成なさっている方もいらつしやるでしょう。私などはほんの幼稚な段階ですので、そういうことを思うのかもしれない最後、私はインドのマザー・テレサの言われた「なくても与える」、その言葉のきびしさに愕然としております。現在の瞬間瞬間に良き想念を發して、日常の小さな行いからやつて行こうと思つております。

もつと宇宙的に

岡山市 小坂 恵

二月はじめにニューズレター七十二号が届きました。巻頭言を読んでいる、かつてドン・キホーテが大好きだったことを思い出しました。映画は見ませんでした、ピーター・オートゥール主演の「ラ・マンチャの男」の主題歌「見果てぬ夢」をよく口ずさんでいたことを思い出しまし

た。ドン・キホーテであるならば、本当にそれでもいいと思つていたことも思い出しました。ただし絶対夢からさめないドン・キホーテです。でも結局思うとおりにならず、ドン・キホーテのため息をついたこともありました。やつと今になってGAPに入会して、去年夏にピスタを訪問して、ごく最近友人に「もう眠っているのはやめた」と書き送つた今になって、かつてのあやまりに気付きます。方法がまちがっていただけでしよう。先生のおことばのように、ただひとつの宇宙という絶対空間の中のものすごいパワーそのままの絶対人間、神を宿している自分が、また万物があるだけなのですね。心ではかることはできません。また、「絶対人間ならもつと宇宙的になれるはずだ」というつきまげも、心地よく感じます。いくらひとから有益な話を聞いても、それを実行しようとしないう限り、実行しようという気にならない限りダメですね。もつと宇宙的に、もつとしあわせに暮らそうとすること以外に何もありません。ただし、私の今の心には判断できないでしょう。もつと学ぶ必要があります。いつも自分自身のことしか書けなくて申し訳ありません。私と同じように千人以上の会員の方々と、先生という一点に向けて、Hello!!と書き送つていっているのではないかと、と書き送つていっているのではないかと、と書き送つていっているのではないかと、何かにつけては先生のお手伝いができればよいのにと思ひながら、まだ岡山大で学ぶことが山ほどあるために、実現できないことを残念に思つてい

ます。必ずまた東京月例会に出席しようと思えますので、その時にはよろしくご指導下さい。

宇宙の英知に師事して前進

栃木県 菊地啓子

静岡支部大会では大変お世話になりました。東京へはレジャーラッシュにまきこまれず帰宅されたでしょうか。日本人のすごいラッシュパワーに圧倒されなければ思っています。(私は圧倒されたのです)

私事ですが、翌日五日、柴田さんとともに静岡駅を六時四十八分始発で東京へ向かいました。早朝でしたが、松山の伊藤氏、高木氏、藤原さんの御三方の厚い、親切な見送りに受けました。皆さん方は朝日に輝いていました。強い友人が存在すると思うと、こちらも元気がなり、眠気などありません。眠そうな富士山がミルク色の雲、うすいペールの向こうにぼくと見えました。柴田さんが「大きいのね」と、静岡がはじめての彼女は遠くすぎゆく静岡の地に、大きな思い出を印象にまぎみつけていました。私たちがまるで一週間も講習会をやったようだと言いつつ、またこれから第一歩だと信念を新たにしました。

五月二日の東京月例会には残念ながら出席できませんでした。静岡で三日間をすごすため、家人の手前やめざるを得なかったのです。ですから静岡でのお話はじいんと胸にこたえるものでした。「生き方」を率直に教えられました。これこそ私が入会以来大きな質問、命題として壁だったことでした。気付くのがなん

と遅いのでしょうか。入会して三年九カ月。これで一歩の前進。原点を忘れたこともあり。宇宙を忘れ、地上の悩み事で地面にへばりついていました。突然、大宇宙にひきもとされたのです。ただ地球人として人間は生きるのでなく、大宇宙の綱を構成する光である。その時のすがすがしさ。これこそ私の存在だ、私の生き方だ。世界中で、宇宙のあらゆるところで人々が笑っているようにでした。うれしくて私も笑いました。

それから何か月がすぎ、年を越すと月例会の司会が変わり、やり方も変化して、ますます実生活におけるアダムスキー哲学が近く近づいてゆき、気がしました。ミラクルワードの反応が、その証明のように耳に入るのです。私もミラクルワードやイメーヂを利用して、目立ちほしませんが小さな利益を得ています。

私はやつと戸口に立つて指導者の名をさがし当てた者にすぎませんが、これからはオーブンマインドな宇宙の意識に師事し、偉大な先輩方に絶対見守られ、げまされていくと確信し、人間として生きてゆきたいと決心しています。

実践あるのみ、歩みはのろまでいつかきつと二歩、三歩と歩み、前進してゆきます。私も未来のどこかで、宇宙の人間になる若い芽をひとりでもGAPに引き寄せることができたらば……その前に私自身、もっと大きくななければなりません。ね。(エピソード。なまじり者が私が出た学校、実践女子短期大学といひます。)先生のご講演、実に感動いたしました。最後の数分間に何度と

なくムチうたれ、しつかりしろノと言われたか知れませんが、先生これからもどうぞよろしくお願いいたします。女らしい気の使い方を知らない短所がありますが……それは、おからだを大切に。お元気で。

愛媛県 西本有水子

素晴らしかった松山支部大会

すっかり春になりました。先生、お元気でございすか。先日松山支部大会の写真とお手紙ありがとうございました。思えば今年の春は天候がどうも全体的によくなくて、雨の日が多かったにもかかわらず、すばらしい晴天の中で大会が無事終了して本当によかったと思います。懐かしい方々の顔もたくさん見え、当時のことをまた思い出しています。今回は少々ずうずうしいまでいろいろと質問したり、また相談ごとを持ち込んだりして、先生に直接お会いできるチャンスが最大に生かされたので、とても満足しています。ありがとうございます。とはいえず、皆さんも先生とお話ししたいと思っ

ていらつしやるので、これでも遠慮したつもりですが、その意味で東京在住の方は本当にうらやましい限りです。私も来年あたり転勤になるまいだろうかとあらぬ期待もついているところですが、アダムスキー哲学はやさしいようで底が深く、学ばずにはいられない深い意味を感じて驚きます。何かとつてもなく大きな感じがします。一歩一歩段階をふんで自分自身を向上させながら、より大きな理解を得られるように前進して

ゆこうと思えます。どうかすると歩みがのろいため、焦ろうとしている自分を発見しますが、まだまだ先は長いのだし、確実な一歩踏み出してます。しかし昨年三月の時の自分と今の自分を比べてみると、確かに以前より少し進歩して理解力が増したように思います。より実践力が身につけてきたと思います。つまりアダムスキー哲学を単に頭で理解したり、考えたりすることから、日々の生活の中に浸透させてゆく努力が少しずつ身についてきたようです。これもGAPの方々の実践の姿が大きな刺激になったようです。

私はよく夢をみるのですが、先生の夢もよくみます。その時々何らかのメッセージを受け取るように思うのですが、起き上がると何割かは忘れてしまつてそのイメージだけが残らぬこともあります。夢の中で一度木犀の音楽というのを聴いて、そのすばらしい音色に泣けて仕方がなかったのですが、起きるとそのメロディーをすっかり忘れてしまいました。(中略)

大成りだった

名古屋支部大会
名古屋支部 武田充弘

今大会では大変お世話になりました。あらためてお礼申し上げます。本当に良かったと言われた数名の方々はじめ、皆さん大変感動されていらつしやいました。またパーティー

会場でありました喫茶店のオーナーも一幅広い年齢層のグループで、何か特殊なものを感じた」と言つておられました。

文通のお願い

●当方、大学四年です。A氏の教えを学ばれ、少しでも日常生活に取り入れようと努力をなすつておられる方、これからA氏の教えを研究しようとなさつておられる方。男女性別は問いません。ただしA氏の体験や教えを心霊的に解釈なさつておられる方はご遠慮下さい。特に岡山市内、県内在住の方とのコンタクトを望みます。

千岡岡山市学南町2-11-7
片山あさの 平井 渉

解説「テレパシー」第3部出版
1980年度東京月例会における久保田会長による「テレパシー」解説原稿のトランスクリプト。(第1部、2部は好評売切れ絶版)
第3部 5版 活字タイプオフセット印刷
¥700 千240
ご注文は下記へ直接どうぞ。
千889-16 宮城県柴田郡柴田町大字本船泊字内沼田96-2 安藤道雄 振替山台30019

出発せまる!

「アメリカ^{メキシコ}宇宙考古学の旅」

●既報の日本GAP企画第3回海外研修旅行は7月末でメ切るが、参加申込者は6月30日現在で26名に達した。最終的には30名を少し超えると思われる。昨年度と一昨年度の各60名台にくらべれば（これはケタはずれの大部隊だった）今回は約半数であるが、こじんまりとした、まとまりのよい旅行団として快適な旅が実現するものと期待される。

●一行は8月15日（土）午後4時に成田空港南ウィングのシンガポール航空カウンター前に集合し、ここで結団式を挙行了あと5時半に見送りの方々と訣別し、出国待合室へ降りて7時発のシンガポール航空12便で勇躍出発して2週間のアメリカとメキシコをまわる長途の旅に出る（詳細は本誌先号を参照）。昨年の旅行では現地バス2台を使用した今回はバス1台で全員の行動が可能なのと、半数が女性なので、はなやかな旅となるだろう。

●一行はアメリカの大都市ロサンゼルス見学を皮切りに16日はカリフォルニア州南部のパロマー山の上のパロマー天文台を見学後ピスタ市に一泊、17日は同市のアダムスキー財団を訪問、ア氏の遺品類を見学、質疑応答を行い、夜は、レストランで日米GAP合同夕食会（立食形式）を開催して交歓。翌18日はデザートセンター砂漠の名高いコンタクト地点を訪れ、再度ロサンゼルスへ帰り、19日はアリゾナ州の世界的景勝地グランドキャニオンを見学。20日は太陽と情熱の国メキシコの首都メキシコ市へ飛び、同夜はマリアッチの民族音楽演奏を聴きながら全員夕食会を開いて美味しいメキシコ料理を賞味。21日はバスでテオティワカンの雄大な太陽と月の両ピラミッドに登頂。午後はメキシコ市内見学。22日は終日自由行動。23日は灼熱のユカタン半島のピリャエルモサへ飛び、ここからジャングルに眠る古代マヤ文明の最重要なパレンケの遺跡を視察して同夜はメキシコ市に帰り、翌24日はメリダへ飛んでマヤ古典期後期のけんらんたるウシュマルの遺跡に陶醉してメリダに一泊。25日は古代マヤとトルテカの混合文明を伝えるチチェンイツァの壮大な遺跡に驚嘆し、夕方カンクンに着いて26日は信じられぬほど美しいカリブ海岸で終日海水浴に打ち興じ、27日はカンクン発メキシコ市経由でロサンゼルスへ帰着、ホテルでさよならパーティーを開催。同夜ロサンゼルス泊。28日はアナハイムのディズニールランドで遊び、翌29日にロサンゼルス発、アメリカに別れを告げて、30日午後5時40分シンガポール航空11便で成田着という素晴らしい大旅行である。

●9月19日（土）の東京月例会（9月のみは第3土曜日に変更。会場も東京文化会館ではなく、8月と9月だけは皇居北の丸公園内の科学技術館に変更。要注意!）で旅行の報告とカラースライド200余点を映写する予定なので期待されたい。

※参加者中で職業「なし」の方が4名見受けられるが、これは旅行に参加するために、休暇の取れない職を離れた方々である。

参加者名簿（申込順）

	氏名	住所	職業		氏名	住所	職業
1	首藤 秀利	熊本市	学 生	16	升田 裕子	広島市	教 師
2	佐々木三羊子	秋田県	会 社 員	17	山城 尚雄	前橋市	国家公務員
3	大橋 博子	北海道	公 社 員	18	佐々木 朋子	広島市	県庁臨時職員
4	安藤 澄雄	宮城県	な し	19	石川 敏雄	東京都	会 社 員
5	伊藤 達夫	愛媛県	な し	20	近藤 久美子	広島市	会 社 員
6	大山ひろみ	栃木県	な し	21	星 富治夫	新潟県	自 営
7	佐分 兼治	愛知県	会 社 員	22	内田 淳次	大阪市	学 生
8	原 弘子	東京都	洋裁教師	23	吉田 有希	北海道	華道教師
9	鶴田 潜則	鹿児島県	農 業	24	島田 利勝	長崎県	自 営
10	佐々木由香子	東京都	会 社 員	25	清水 正	山形県	国鉄職員
11	元井 武士	東京都	会 社 員	26	宮下志づえ	東京都	会 社 員
12	渡辺 貴子	兵庫県	な し	27			
13	中川 敏恵	愛媛県	歯科衛生士	28			
14	小沢アユ子	松山市	学 生	29			
15	中根 豊	青森県	農 業	30			

故ジョージアダムスキーの体験と思想のすべてを伝える記念すべき著作の特別限定保存版完成!

宇宙からの訪問者

偉大な宇宙人との会談記 限定版定価 2400円 送料別 300円

この星から何處へ進化を待たず人類が巨大な宇宙船に乗って地球の表裏にわたって。壮大な宇宙空間の大スイングクルと驚異の事実を伝える本書はまさに20世紀最大のトキメキメソロジーである。このたびはすでに歴史的な記録書となつた本書の判型を四六判に拡大してデザインも一新、ハードカバーの主要保存版として限定部数を読者に贈ることになった。この書は「宇宙の内幕見聞」と「宇宙の内幕見聞」との改訂完全版。ユニバーズ出版社

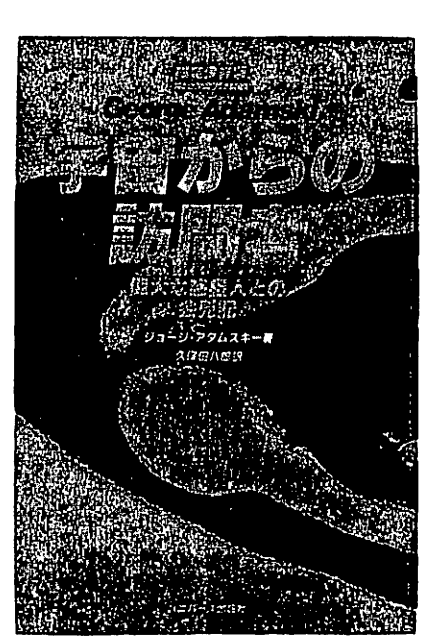
5月20日
全国書店一斉発売

7つの謎と奇跡

驚異ノンフィクションミステリー 久保田八郎著 四六判220頁 880円

ルールドの奇跡 聖女ベルナデットの奇跡の現象と、大生物学者アレキシス・カレル博士が目撃した驚くべき瞬間治療の実話を究明に描写し、感激の源の物語ノ
古代マヤの謎 メキシコ、ユカタン半島のジャングルに眠る古代マヤの遺跡は太古海中に沈没したムー大陸の栄光を残すノ 宇宙考古学の史実を实地捜査により記述ノ
ネス湖の怪獣は実在する ノ スエド湖にはやはり怪獣がいたノ 歴史的目撃事件を列挙して読者を熱狂させ、驚異の法にひきずり込むノ
奇跡の超能力手術者 ブラジルの名高いアリゴの劇的な生涯と神秘的な超能力者たるノ
シベリア謎の大爆発 一九〇八年六月にシベリアで発生した世にも信じ難い大爆発は別な惑星から来た宇宙船の恐るべき最後か? 論議の消えぬ謎ノ
フアティマの謎の太陽円盤 一九一七年、ホルトガルの寒村フアティマで三人の子供をめぐって七万人の目撃者の眼前で驚天動地の大事件が発生したノ
月は異星人の宇宙基地 月に着陸したアポロ宇宙飛行士たちが驚異の大建造物を発見した真相を暴露ノ 米航空宇宙局はひた隠しにしたノ

●ノンフィクション・ミステリー研究の第一人者が
綿密な調査研究により書き下した驚くべき実話集! 主婦の友社



日本GAP各地 行事報告と予告

81年10月以降分

▲上半期各地地方 支部大会終了

五月四日の静岡支部大会、十七日の大阪支部大会、二十四日の仙台・山形合同支部大会、六月七日の札幌・旭川合同支部大会、十四日の名古屋支部決起大会、七月十二日の群馬支部大会と集中的に開催された各支部大会はいずれも大成功裡に終了しました。この内、名古屋は急な計画のためにニューズレターで予告不能でしたから東海地区一帯の会員にハガキで通知しました。各大会の詳細は本誌別掲記事を参照。

▲GAP出版記念会

これも別掲記事のごとく盛大に開催され、祝福の雰囲気包まれて、福引きやダンス等でにぎやかに終了しました。

▲アメリカ カリブ海 メキシコ

▲宇宙考古学の旅

六月三十日現在で参加申込者は二十六名に達して実施が確定、すでに第一回説明会を終了。七月二十六日(大阪地区)と八月二日(東京地区)の最終説明会を経て八月十五日に勇躍長途の大旅行に出

発の予定。詳細は本誌36頁を参照。

▲八月と九月の東京 月例会は会場を変更

八月と九月は従来使用した上野公園の東京文化会館がイタリアのミラノ・スカラ座大公演のため全室借用不可能となるので、次のように変更しましたからご注意下さい。

●八月は一日(第一土曜日)に開催。

会場は皇居北の丸公園内「科学技術館」。地下鉄東西線「竹橋」駅下車すぐ。東京駅丸の内側に出て会場まで歩けば二十分。タクシーなら五分で料金は三八〇円。

●九月のみは十九日(第三土曜日)に開催しますからお間違いないように。

会場は八月と同じ「科学技術館」※十月は総会のため東京月例会は中止し十一月からふたたび東京文化会館で第一土曜日に月例会を開催します。

▲日本GAP総会

本年度総会は左頁の予告どおりに十月十日、東京新橋のヤクルトホールで盛大に開催します。多数ご参加下さい。

▲大阪支部の飛鳥路 サイクリング

新緑の香り高い五月十日に、郊外の新鮮な空気を満喫しようと午前十時に大阪駅を出発、国鉄環状線鶴橋駅を經由し約

一時間後に近鉄線榎原駅に到着。十二名の参加者が初めの予定を変更して全員自転車に乗ってサイクリングに出かけました。

途中、小高い丘陵に囲まれた見晴らしのよい場所をみつけて持参の弁当をひろげ、しばし談笑の後ふたたび自転車で飛鳥寺を経て酒舟石のある丘へ登る。

すてきなパンフレットを頒布!
食事・入浴その他のマナーについて
久保田会長執筆 ¥100 千60
今夏の海外研修旅行参加者用に食の作り方を、西洋式風呂の入り方を、他に説明。これについて、このパンフレットを、希望者は80円の手紙一枚で、下記へ注文下さい。
〒133東京都江戸川区本一色町365-818 日本GAP (振替は不可)

最後の目的地石舞台は古墳の棺を納める部分が見出ししたのですが、規模は日本一だとのことです。この付近の芝生のある公園でフリスビーなどを楽しんだあと、ふたたび榎原駅へもどり、午後五時頃帰路につきました。

大阪支部ではたびたびハイキングや見学等を行い親交を深めています。いつも参加者が同一メンバーになりがちです。一度一緒に出かけませんか。

(山田宏三郎記)

▲おめでた一件

東京都北区の会員・加藤登志子さんは

来たる八月一日に南青山の東京青山会館でめでたく華燭の典を挙行されます。新郎は今のところ非会員なるも、きわめて宇宙的なおおらかな性格の由。ご多幸をお祈りします。

▲予告熊本支部大会

熊本支部は今年度支部大会を次の要領で実施することに決定しました。多数ご来場の程お願いいたします。

日時 十一月二十二日(日)午後一時より五時半まで。

会場 市みゆき会館三階大ホール
熊本市花畑町四一八、
電話〇九六三二五六一二七一

会費 二〇〇〇円 大会終了後別会場
で希望者のみの夕食会を開催。会費は三〇〇〇円程度。会場未定。

宿舎 熊本法華クラブ(ホテル)をお世話
話します。シングル一泊四四〇〇
円。夕食会と宿舎の申込は十月末
までに〒800熊本市二本木三二一
一四五、常通寺内、津野田俊行宛
にハガキで。電話〇九六三二一五二
一三三八一。

プログラム
一時より支部代表挨拶、久保田会長講演。二時半よりスライド「アメリカカリブ海宇宙考古学の旅」映写。四時より質疑応答、意見発表。翌日(祭日)は希望者のみで雄大な阿蘇山ヘドライブの予定。

(首藤秀利記)

予告

1981年度

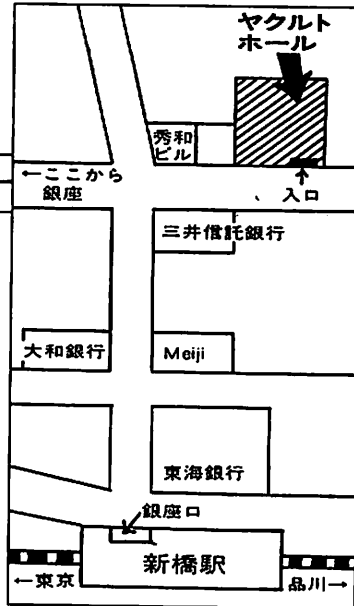
●宇宙的回憶を満喫しよう！●

日本GAP総会

盛夏の候、会員の皆様にはご健勝のことと存じます。今秋10月にも下記の要領で総会を開催いたします。昨年度総会に引き続き地方支部代表の俊英5氏と久保田会長による大講演を実施後、アメリカの名画「2001年宇宙の旅」を上映し、夕方からは別会場ではなやかな大夕食会を開きますので、万障お繰合せの上多数ご来場下さいませ。役員一同心からお待ちしております。

- 日 時 10月10日(祭日。2日間連休の初日) 午前10:00→午後5:00
- 会 場 ヤクルトホール (株式会社ヤクルト本社内)
東京都港区東新橋1-1-19 Tel. (03)574-7255
- 会 費 ¥2,500 当日受付でご納入下さい。

国電「新橋」駅の「銀座口」改札口を出ると、せまい道路の向かい側に東海銀行があるので、その左側の道路を前方へまっすぐ100m行くと交差点に出る。斜め右側の黒いビル。徒歩2分。



プログラム

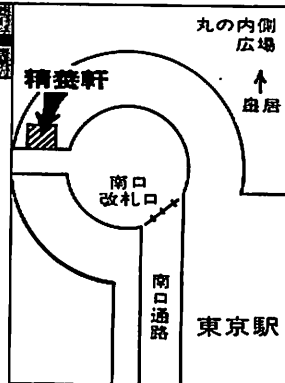
- 司会 平塚 和義 (大阪支部代表)
渡辺優美子 (大阪支部)
- 9:00 受付開始
 - 10:00 講演「私にとっての宇宙哲学」 伊藤重信 (札幌支部代表)
 "「惑星地球におけるレッスン」 山口 緑 (元山形支部代表)
 "「アダムスキー問題を研究して」 武田充弘 (名古屋支部代表)
 "「アダムスキー哲学の実践の喜び」 足立亘宏 (新潟支部代表)
 - 12:00 一休憩・昼食
 - 13:00 講演「アダムスキー哲学について思うこと」 山田宏三郎 (大阪支部代表)
 "「アダムスキー師が教えるもの」 久保田八郎 (日本GAP会長)
 - 14:15 映画「2001年宇宙の旅」 驚異のスケール！雄大なドラマ！
5年の歳月と90億の巨費を投じて作られた、あらゆるSF映画の最高峰に位置する不滅の名作！(詳細は本誌32-33頁参照)
 - 17:00 司会者閉会の辞

大夕食会開催!

総会終了後、下記の場所で立食形式による大夕食会を開催します。ふるってご参加下さい。

- と き 総会終了後 18:00より20:30まで。
- と ころ 精養軒2階 東京駅丸の内側南口構内。
Tel. 231-1562 (駅の八重洲側ではなく、丸の内側。駅舎の外ではなく、南口改札を出た所の構内です)
- 会 費 ¥5,500 会場受付で納めて下さい。
出席希望者は9月末までに日本GAP宛ハガキでお申込下さい。定員100名まで。

宿舎ご希望の方は下記の田中氏へハガキで9月10日までにお申込み下さい。
ホテル「捕島」(中央区晴海) シングル¥4,900(30室分子約済) / 申込先=〒150 東京都渋谷区東3-24-9、サンイーストビル2F、ワールドセブントラベル社、田中 正(宛)
Tel. (03)499-2461 夜間は(0462)63-0615(自宅)



日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日 時	会 場	会費	携 行 品 ・ 行 事
東京本部	毎月第1土曜日 午後2:00→6:00 ※9月のみ19日 (第3土曜)	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。 ☎03-828-2111。国電「上野駅」の「公園口」下車。改札口の真向かいスグ。 ※8月と9月のみ会場は科学技術館。 詳細は38頁。	¥300	2:00→3:00会員による体験講演。 3:00→3:30久保田会長の宇宙哲学講義と近況報告、テレバシー練習、休憩。 4:30→6:00自己紹介、意見発表、質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」☎(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先=平塚和義 ☎06-436-3478	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」(文久書林刊)を持参。東京例会における久保田会長の講演テープを公開。テレバシー練習・研究発表・座談会
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟駅前「青年の家」☎0252-44-6766 連絡先=足立亘宏 ☎0252-62-0968	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の宇宙哲学講義録音テープを公開。テレバシー練習、座談会。
熊本支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	熊本市仁本木3-12-45 常通寺 連絡先=津野田俊行 ☎0963-52-3381	200	テ テキストとして「生命の科学」「テレバシー」(文久書林)を持参。久保田会長の東京例会における「宇宙哲学」講義録音テープ公開。座談と研究発表。テレバシー練習。
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※10月は総会のため月例会を中止 11月は3日に変更	名古屋市中区古沢町7-1「名古屋市民会館」特別会議室。☎(052)331-2141 国鉄・名鉄・地下鉄「金山橋駅」下車。徒歩5分。 連絡先=林 国宣 ☎0586-45-6468 武田充弘 ☎052-622-7339	300	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」「宇宙哲学」を持参。久保田会長の講演録音テープ公開。研究発表、テレバシー練習、座談会。
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1:10→4:20 ※8月は第3日曜日の16日、10月は総会のため月例会は中止。	仙台市「市民会館」会議室(西公園内) 連絡先=笠原弘可 ☎0222-95-0725	200	東京本部月例会における久保田会長の講義録音テープ公開、テレバシー練習、座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	山形市民会館。小会議室。山形市香澄町山形駅より徒歩5分。☎0236-42-3121 連絡先=清水 正 ☎0238-21-5441	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、テレバシー練習、研究発表、座談会。
札幌支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	中央区北一条西一丁目「札幌市民会館」会議室。☎011-241-9171 連絡先=伊藤重信 ☎011-251-4331	300	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」と官製ハガキを持参。読書会、テレバシー練習、自己紹介。
静岡支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00	プラザ静岡ビル8階(静岡駅北口すぐ)静岡市御幸町9-1 連絡先=野口敏治 ☎0542-86-7729	200	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京本部例会における久保田会長の講演録音テープ公開。テレバシー練習、研究発表。
旭川支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	旭川市四条通り10丁目右1号「北海道新聞旭川支社」会議室。電話0166-23-2111 連絡先=石川公一 ☎0166-51-5699	500	テキストとして「テレバシー」「生命の科学」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表。
松山支部	毎月第4日曜日 午後1:00→4:30	松山市民会館会議室 連絡先=伊藤達夫 ☎0898-22-3060	200	テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープ公開。質疑応答、座談会。
群馬支部	毎月第2日曜日 午後2:00→6:00	群馬県太田市「太田市民会館」第6会議室。 連絡先=服部 久 ☎0276-63-2163・2771	200	東京本部月例会における久保田会長の講演録音テープ公開、座談会等。
青森支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室(2) ☎0177-34-0163 連絡先=中根 豊 ☎01756-3-3386		テキストとして「生命の科学」「テレバシー」を持参。東京月例会における久保田会長の講演録音テープを公開。テレバシー練習、研究発表、座談会。
沖縄支部	沖縄支部設立！ 月例会参加希望者は下記宛問い合わせして下さい。 稲嶺誠一 Tel 09893-8-2995 すでに支部所属会員は30名/8月に支部結成大会を開催の予定			

★本誌バックナンバー(旧号)★

米ジョージ・アダムスキー財団公認の唯一の日本提携グループたる日本GAPがアダムスキー問題に関して正確詳細なインフォメーションを伝える本誌は貴重な資料として後世に残るものです。

No.70 主要記事「創造主のハート」G.アダムスキー／「愛と太陽の大地」久保田八郎／「コンピューターによるUFO写真の真偽判定は正しいか」田畑宏／「質疑応答」S.ホワイティング／〈写真〉「東京上空のUFO」その他

No.71 主要記事「アリス・ウェルズ女史、逝去」F.ステックリング／「アメリカ南米宇宙考古学の旅」紀行「大アンデスと太陽の帝国」久保田八郎／「質疑応答」宇宙と人間の真相」F.ステックリング&S.ホワイティング／その他。

No.72 1980年度総会特集号
主要記事「宇宙的生活の基本」伊藤道夫／「生活の中のアダムスキー哲学」笠原弘可／「実践24時間」野口敏浩／「アダムスキー哲学と私の歩み」遠藤昭則／「宇宙哲学との出会いと実践活動の今後」志田真人／「アダムスキー問題の本質」久保田八郎／その他。

No.73 主要記事「バック・ネルソンの驚くべきコンタクト」久保田八郎／「私のテレバシー体験」田中正／「宇宙哲学で運命が好転した」篠芳史／「ミラクルワードにより奇跡が発生」黒田保夫／「信念の力で蘇生した私」山口操／「宇宙と人間の真相」F.ステックリング／「さらば空飛ぶ円盤」(I)G.アダムスキー／その他。

※No.69より71までは各¥500。No.72から¥700。千各¥200。

「宇宙哲学」講演録音テープ

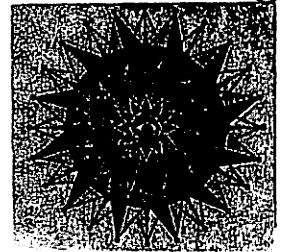
今年度東京月例会における久保田先生の毎月の講演を録音した貴重なテープ。理解を深め思想の統一を図る上で重要な資料となるものです。先生の雄大な弁舌をぜひお聴き下さい。

テープ1本(90分) ¥1000 千200

このテープの注文に限り××月分と記して必ず下記へご注文下さい(58年1月より毎月録音)。GAP本部では扱いません。

〒430 静岡県浜松市寺島町221

小島国弘(静岡支部所属。自宅TEL.0534-52-8502)



①オーソン肖像写真 ②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをA氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は「すべてを見透す眼」で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に撮らせてください。

①¥500千120 ②¥200千60—一括注文の場合千120

③想念観察手帖 ④テレバシー練習用ゼナーカード

アダムスキーの宇宙哲学にもとづいて自己の想念印象を観察し、宇宙的想念と非宇宙的想念とに分類して記入する。宇宙的テレバシクな人間になるための必需品。1冊で1カ月分の記入が可能。¥500 千120

アメリカで開発されて世界的に広まったテレバシー練習用カード。5種1組のカードを1箱に5組、計25枚収納。美しく入り。¥500 千120

日本GAP

会員募集 日本GAP

〒133東京都江戸川区
本一色町365-818

★日本GAPはUFO研究界の大先駆者・久保田八郎が故ジョージ・アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のUFOと宇宙哲学の研究大集団！ ★コスミックマン(宇宙の人間)を志向する千数百名の男女会員は単にUFOの目撃報告の分析のみにとどまらず、アダムスキー氏が残した偉大なガイドブック「生命の科学」「テレバシー」等の研究実践により潜在能力の開発に研さん中！ ★苦難を克服して力強く生きよう！ 意識を宇宙の彼方へ拡大しよう！ ★入会案内書をハガキで日本GAPへ申し込もう！

★三月以来集約的に続いた上半期の地方支部大会も全部大成功裡に終了し、息をつく間もなく本号の編集に追われましてとうとう出版にこぎつけてますはめでたしとうとう出版にこぎつけてますはめでたしというところで、本号ではアダムスキーの金星旅行記「死と空間を超えて」の改訂決定版をトップに掲載しました。きわめて稀少かつ貴重な記事ですから熟読玩味下さいね！その他「さらば空飛ぶ円盤」も重要なインフォメーションを含んでます。
★GAP企画第三回の「アメリカカリフォルニア宇宙考古学の旅」も切迫しました。素晴らしい旅行が展開するものと参加者一同張りきって準備中です。九月の東京月例会では旅行のスライドを映写しますから多数ご募集下さい。
★その東京月例会ですが38頁の詳細な予告とおおり八月と九月は会場を変更しますからお問い合わせいなきようにご留意下さい。
○八月二十八日(第一土曜日)午後二時より、泉居北の丸公園内・科学技術館
○九月十九日(第三土曜日)午後二時から。会場は右と同じ。

編集後記

十月は総会のために月例会は中止。十一月より毎月第一土曜日に元の東京文化会館で開催します。
★十月十日の総会も盛大に挙行の予定で準備中です。39頁の予告をご参照の上ふってご参加下さい。

★アダムスキーの「宇宙からの訪問者」を各自の母校の中学や高校の図書館に寄贈しようという運動を静岡支部代表の野口敏浩氏が提唱しております。これはカルマを持ちながらアダムスキー問題に気付けぬ若い潜在層を一人でも多く発掘するのが目的です。ご協力のほどを。

★本誌も本号から若干数を書店に出すべく全国の支部に依頼中です。収益は二の次であって、やはりカルマを有する潜在層に気付けさせることを目標とするものです。各自の居住地の地元で委託販売を依頼する件で協力しようと思われる方は日本GAP宛ご連絡下さい。詳細な資料をお送りいたします。
★次号はアダムスキーの「土星旅行記」の改訂決定版掲載します。十月末の刊行ですがご期待下さい。

★ご送金の際は当方の事情により現金書留にしないで必ず郵便振替でお願いします。切手代用は特に指定してあるもの以外はご遠慮下さい。
★振替でご送金の際は払込通知書の加入者名の欄に「日本GAP」と記入されるだけでOKです。
★住所変更通知の場合は①旧住所②新住所③会員番号を併記して下さいようお願いいたします。(K)

日本GAP機関誌・季刊「夏月号」
GAPニュースレター 74号
編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP本部
〒133東京都江戸川区本一色町365-818 P
電話(651)0958
振替東京4355912
一九八一年七月二十五日発行
頒価七〇〇円送料二〇〇円